

参考資料

令和3年度使用中学校用教科用図書

調査資料

埼玉県教育委員会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
6 教 図	教育図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
81 山 川	株式会社山川出版社
104 数 研	数研出版株式会社
116 日 文	日本文教出版株式会社
224 学 研	株式会社学研教育みらい
225 自由社	株式会社自由社
227 育鵬社	株式会社育鵬社
229 学び舎	株式会社学び舎
232 廣あかつき	廣済堂あかつき株式会社
233 日 科	日本教科書株式会社

国語科（国語）調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○社会生活に必要な国語の特質（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）を理解し適切に使うことができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>○言語活動を通して、言語能力を育成するためにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する能力の向上を図る態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞</p> <p>○自ら進んで読書をし、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○漢字・用語・記号などの使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の言語能力の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい国語</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の教材末の「てびき」の中に「広がる言葉」を設定したり、資料の「言葉を広げよう」と関連付けたりすることで、語彙の拡充を図っている。 ○巻末の「論理的な言葉の力」において、1年では情報の分類や比較、2年では情報の整理、3年では情報の多面的な捉え方を取り上げている。身近な例を題材とした教材を設定し、情報を活用する力を身に付ける工夫をしている。 ○古典に親しませるために、見開き教材の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で様々な古典作品を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞く」「話す」「話し合う」という言語活動について、各学年一つずつ教材を配置して言語活動の充実を図っている。また、「話す」「話し合う」の教材では、「学習の流れ」を示し、言語活動の見通しを示すようにしている。 ○「読むこと」の教材から学んだ表現や構成等を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付けて、多面的に思考できるように工夫している。「学びの扉」を設け、言葉を活用する力の育成に配慮している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末に『言葉の力』一覧」として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で学習する言葉の力を3年間系統的に学べるように示している。 ○「学びの扉」「学びを支える言葉の力」では、授業や日常生活での言葉の使い方や話の聞き方・伝え方を漫画等でまとめている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「読書案内」を配置している。「読書への招待」、資料編「本の世界を楽しもう」などで学習した教材と読み比べられる本を紹介している。 ○1年で図書館調べやポップ作り、2年でビブリオバトルやレポート、3年で読書会などに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭では、目次で各教材と領域の関係を色別の記号を付けて掲載したり、小学校や前学年の既習事項を領域ごとに掲載したりしている。 ○巻末に、論理的・文学的・対話的な言葉の力を高める「基礎編」と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」を掲載している。 ○Dマークを付した各教材では、ウェブサイト上で教科書と連動したデジタルコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1字で脚注に複数の読み方とともに示している。また、巻末資料では当該学年の学習漢字について筆順や用例をまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、既習事項と当該学年の学習内容を巻頭で説明したりしている。 	

書名 項目	<h1>現代の国語</h1>	15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三省堂</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材末にある「学びの道しるべ」で「語彙を豊かに」を設定したり、資料で「辞典を活用する」などを掲載したりすることで、語彙の拡充を図っている。 ○情報について、自分の考えを深める単元「情報を関係づける」を設けている。また、資料編には、全学年で「情報を活用する」を設定し、情報探しの方法、引用と著作権について具体的に示している。 ○古典に親しませるために、見開き教材の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能に関する教材を取り上げたりしている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、各学年三つの教材で構成している。各学年ともグループでの話し合いから、学年に応じた活動ができるよう配慮し、言語活動の充実を図っている。また「書くこと」と「話すこと」を関連させる工夫をしている。 ○「読むこと」の文章と、同じ文種の文を書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。また、「読み方を学ぼう」を設け、「読むこと」の学習内容について確認できるようにしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「学びの道しるべ」を設け、学習の見通しを持たせている。また、巻末資料の「読み方を学ぼう（一覧）」により、一年間の振り返りができるようにしている。 ○各学年の巻末資料に、類義語や擬声語などテーマを設けた語彙の資料や、手紙の書き方・話し合いの仕方等を一覧にして掲載している。 <p>＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「私の本棚」を配置している。読書単元「読書の広場」や資料「日本文学名作集」を設け、様々な本を紹介している。 ○1年でブッククラブ、2年でビブリオバトル、3年でブックトークに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「この教科書の使い方」において、「見通し」から「振り返り」までの学習の過程を示して説明している。 ○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」を掲載し、国語の学習に役立つ用語を「学習用語辞典」でまとめている。 ○古典教材と「読書の広場」にQRコードがあり、それを読み取ると教科書と連動したコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1語単位で脚注に示し、各教材末に用例とともに示している。また、巻末資料では当該学年の学習漢字の用例や筆順、同音異字などをまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、話し合い活動や説明文の基本が確認できるようになったりしている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">伝え合う言葉 中学国語</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○巻頭の「言葉の地図」、各教材末にある「みちしるべ」の中の「この教材で学ぶ言葉」、巻末折込みの「理解に役立つ言葉」等で語彙の拡充を図っている。 ○巻末折込みの「表現に役立つ言葉」に情報の関係を整理して表現する時に役立つ文型等を掲載している。教材末の「学びナビ」で語彙と情報の扱い方を関連付けることで、情報の扱い方が身に付くように工夫している。 ○古典に親しませるために、写真等の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能の教材や古典文法を取り上げたりしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「話すこと・聞くこと」について、1年は4つの教材、2・3年は五つの教材で構成している。様々な話し合いの手段を紹介し、言語活動の充実を図っている。また、話し方・聞き方を系統的に学び、振り返りができる工夫をしている。 ○「読むこと」の教材から学んだ表現や構成等を生かして実用的な文章を書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。また、文章を読む前に読むときの着目点を示している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭の「言葉の地図」に学習内容と身に付けたい力の一覧を掲載している。それをもとに各教材の「みちしるべ」と連動させ、学習の振り返りの視点を示している。 ○巻末資料では現代文学・古典文学の読書教材の他、授業や日常生活で文章を書くときの注意点や表現に役立つ言葉をまとめている。 </p> <p> <読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○単元ごとに「広がる本の世界」を配置している。「読書への招待」という教材を設定して、読書活動につながる本を紹介している。 ○1年で本の帯やポップ作り、2年で読書レポート、3年でビブリオバトルや読書記録に取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭の「言葉の地図」において、1年間で学ぶ内容と身に付けたい言葉の力をSDGsの視点との関わりが分かるように示している。 ○巻末に、言葉と文法についてまとめられた「解説編」と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「言葉の自習室」を掲載している。 ○まなびリンクマークのある教材では、学習時に参照できる資料をウェブサイトで見覧、利用することができるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○新出漢字を脚注では1字で示し、各教材末に用例とともに示している。また、巻末資料では当該学年以外に小学6年の学習漢字の筆順と用例をまとめている。 </p>	
総 括	<p> ○1年の教科書では、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、各教材の読み方を小学校での既習事項を踏まえて解説したりしている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">国語</h1>	38 光 村
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○1年は「言葉を集めよう」、2年は「言葉を比べよう」、3年は「言葉を選ぼう」という教材を設定し、巻末資料に「語彙を豊かに」を掲載して語彙の拡充を図っている。 ○情報について、「情報整理のレッスン」や「思考のレッスン」を設けて、情報の扱い方を示している。情報に関する教材をまとめて示す単元「情報社会を生きる」を各学年に設定し、情報を活用する力を高める工夫をしている。 ○古典に親しませるように、QRコードで朗読音声を提示して古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能や古典作品を取り上げたりしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「話すこと・聞くこと」について、1・3年は七つの教材、2年は六つの教材で構成している。音声言語の技能に関する教材と、それを活用した言語活動を行う教材を配置し、技能と活動を一体化させて学ばせようとしている。 ○「読むこと」の教材文から学んだ表現や構成等を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。「学習の窓」では、読むときの着目点を示している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学習内容の振り返りができるように、巻末資料に『学習の窓』一覧を設定し、各教材で学んだ基本的なことを示している。 ○巻末の資料「豊かに表現するために」では、日常生活に生きるテーマを設け、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の1年間で学習した言語活動を掲載している。 </p> <p> <読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○「読むこと」の教材ごとに「広がる読書」を配置している。読書単元を二つ設定し、テーマ別に本を紹介したり、読み比べにつなげさせたりしている。 ○1年でポップ作りや読書記録、2年で本の紹介合戦やポスター作り、3年でブックトークや読書会などに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭では、目次で各教材と領域の関係を色別の記号を付けて掲載したり、「思考の地図」で様々な思考の方法を具体的に紹介したりしている。 ○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる資料や、学習の定着を図る課題を掲載している。 ○各教材の最後に記載されているQRコードを読み取ると教科書と連動したコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○新出漢字を1語単位で脚注に示し、各教材末に1字でまとめて示している。巻末資料では、当該学年の学習漢字の用例や筆順、四字熟語の用例などをまとめている。 </p>	
総 括	<p> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、言語活動の基本的な説明を最初にまとめたりしている。 </p>	

国語科（国語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	342	357	354	340
	2年	346	357	366	336
	3年	345	341	354	324
2 巻末資料、付録等の総ページ数 ※ ページ番号のない部分も含む	1年	89	98	82	91
	2年	91	94	74	90
	3年	100	96	72	106
3 単元数	1年	7	9	9	8
	2年	7	9	9	8
	3年	7	8	8	8

○領域別教材数等について ※（ ）内は、資料編等の中の教材及び資料数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村	
1 教材数 ※ 扉の部分の詩も教材数に含む	1年	60(31)	62(18)	64(26)	80(24)	
	2年	59(36)	62(18)	63(24)	75(26)	
	3年	58(34)	58(18)	63(25)	69(28)	
2 領域別教材数	① 言葉の特徴や使い方に関する事項	1年	14(10)	19(8)	16(12)	25(12)
		2年	13(13)	18(8)	15(14)	24(12)
		3年	12(13)	16(8)	14(14)	22(11)
	② 情報の取り扱いに関する事項	1年	3(5)	1(4)	3(1)	7(0)
		2年	3(4)	1(4)	1(0)	7(0)
		3年	3(4)	1(4)	3(0)	5(1)
	③ 我が国の言語文化に関する事項	1年	14(3)	14(3)	19(9)	15(3)
		2年	12(5)	13(3)	18(7)	13(4)
		3年	14(7)	14(3)	17(8)	15(5)
	④ 話すこと・聞くこと	1年	4(3)	2(1)	5(1)	7(1)
		2年	4(4)	2(1)	6(1)	5(3)
		3年	4(3)	2(1)	7(2)	6(3)
	⑤ 書くこと	1年	7(6)	7(2)	7(3)	7(6)
		2年	7(6)	7(2)	8(2)	8(4)
		3年	5(4)	5(2)	4(1)	6(3)
	⑥ 読むこと	1年	18(4)	19(0)	14(0)	19(2)
		2年	20(4)	21(0)	15(0)	18(3)
		3年	20(3)	20(0)	18(0)	15(5)

○文種別教材数について ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 説明的文章 ※ 新聞記事等を含む	1年	3(1)	6(1)	9(0)	8(1)
	2年	5(1)	7(1)	8(0)	7(1)
	3年	4(1)	6(1)	11(1)	6(0)
2 物語・小説・随筆 ※ 古典は除く	1年	7(1)	6(3)	6(2)	10(1)
	2年	6(1)	4(3)	7(2)	9(1)
	3年	6(1)	5(3)	8(3)	8(4)
3 詩・短歌・俳句 ※ 巻頭詩等を含む	1年	11(0)	3(0)	7(1)	10(0)
	2年	12(0)	5(0)	7(1)	9(0)
	3年	13(0)	5(0)	10(1)	10(0)
4 古典 ※ 漢文・和歌・川柳等を含む	1年	4(1)	3(2)	3(2)	4(2)
	2年	3(3)	3(2)	3(2)	6(3)
	3年	3(3)	3(2)	3(1)	6(2)

○その他 ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
学校図書館等の活用に関する教材数 (読書案内・読書活動を含む)	1年	8(2)	8(0)	11(4)	9(0)
	2年	8(2)	8(0)	11(4)	7(0)
	3年	8(2)	8(0)	10(4)	8(0)

国語科（書写）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○○ ○○○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○目的や必要に応じて、文字を選んで効果的に書かせる学習について、どのような工夫が見られるか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○生徒が主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><毛筆と硬筆との関連></p> <p>○毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><各教科や社会生活との関わり></p> <p>○書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料の内容には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料の配置や手本との関連には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○用語・記号などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材の内容や解説・説明の仕方について、生徒の言語能力の発達の段階に応じて、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい書写</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。六つの過程を設け、単元を展開している。学習事項を確かめながら、知識や技能の定着を図ろうとしている。 ○毛筆では、穂先の動き等の基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示している。硬筆で書き方を確認させてから、毛筆で課題に取り組むようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけよう」で書体を比較させたり、その差異の理由を考えさせたりすることで、学習のポイントを意識できるよう構成している。 ○単元の終末で、目的に応じた表現の仕方について学び、必要な情報を選択する等、段階的に演習を交えながら実生活に生かせるよう構成している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」で、①目標を確かめる②「書写のかぎ」を見つける③書いて確かめる④生かして書く⑤振り返って話す⑥生活に広げる、という流れを説明している。 ○「振り返って話そう」では、学習の目標と連動した自己評価項目について、自分の言葉で説明することや、話し合い活動を通して振り返らせるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本点画を学ぶ際、「見つけよう」という項目があり、硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」という項目で毛筆の点画の書き方へと生かす流れになっている。 ○単元の終末に「生かそう」という硬筆教材を設定しており、毛筆の点画を書く際に学んだことを硬筆にも生かせるよう関連を図っている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年、「生活に広げよう」という項目を設け、本のポップ作り等、生活の様々な場面を通して社会生活との関わりを示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢と筆記用具の持ち方」について写真を使って解説している。また、「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体を併記している。 ○巻末の「書写活用ブック」で様々な書式や漢字表を取り上げている。また、随所にコラム「文字のいずみ」を設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○Dマークがある単元では、デジタルコンテンツが提供され、インターネットを使って毛筆教材文字の運筆動画等を見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。学習の中心事項について文字色を変えて記し、学習課題に結びつくよう工夫している。「始筆・送筆・終筆」を「とん・すう・ぴたっ」とし運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習事項を明確にし、単元を対話的に振り返る工夫をしている。 ○書写での学びを日常に生かす活用力を養う教材で、国語の学びを支え、他教科に学びが広がる構成となっている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の書写</h1>	15 三省堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。七つの過程を設け単元を展開している。具体的な字形例をもとに、書き方のポイント示している。 ○毛筆の筆使いに、筆圧・穂先の動きを朱墨・淡墨で示している。繰り返し硬筆で練習することにより学びの定着を図ろうとしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「見つけよう・考えよう」の問いによって、文字の書体を比較しながら書き方のポイントを見つける等、単元の課題を意識して学習を進められるよう構成している。 ○学年ごとに場面に応じた効果的な文字の選択等、学習したことを生かせるよう手順を示しながら表現活動ができるよう構成している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学習の流れ」で、①目標を確かめて学習の見通しをもつ②書き方のポイントをつかむ等、七つの過程を示し学習の仕組みを説明している。 ○「振り返ろう」では、学んだことを意識させながら書かせることで、学んだことが活用できているかを確認し、枠に直接記入させるようにしている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○基本点画を学ぶ際、毛筆で点画の特徴を学んだ後、「書いて身につけよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆の関連を図っている。 ○毛筆で書いて習得したことを、他教科や日常生活でも硬筆で活用できるよう書き込みをさせ、学習の振り返りができるようになっている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○各学年、「やってみよう」の項目を設け、グループ新聞や地域の情報誌を作る等の取組を通して社会生活との関わりを示している。 </p>	
資 料	<p> ○「学習のはじめに」では姿勢と筆記用具の持ち方を、写真やイラストを使って解説している。また、「楷書・行書一覧表」では楷書体と行書体を併記している。 ○巻末の「資料編」には「日常の書式」「文房四宝」「書き初め」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○教科書に掲載されている二次元コードを読み取ることで、硬筆・毛筆の姿勢や持ち方、筆の運び方などの内容が見られるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。学習の中心事項を文章で記し、学習課題に結びつくよう工夫している。筆圧を「始筆は強く。徐々に軽く。」等、文章で示し、運筆指導に対応している。 </p>	
総 括	<p> ○各教材を見開きで構成し、学習内容を一覧で示している。 ○学習したことを多様な場面で活用できる力を身に付ける教材で、文字文化の担い手として関わり方を考えられる構成になっている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学書写</h1>	17 教 出
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「目標」を示し、学習の見通しが持てるようにしている。五つの過程を設け単元を展開し、基礎・基本の定着を図ろうとしている。 ○毛筆では、基本的な点画や穂先の動きを二色の薄墨で示している。硬筆で「試し書き」をしてから毛筆での書き方を学ばせるようにしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「考えよう」の問いで、文字同士を比較したりその差異の理由を考えたりしながら学習のポイントを意識できるよう構成している。 ○「学習を生かして書く」では効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、学年ごとの学習内容を活かして表現活動に取り組むことができるよう題材を設定している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学習の進め方」で、①目標を確かめ、試し書きをする②課題を見つける③生かして書く④学習を振り返る⑤学習や日常生活に生かす、という流れを説明している。 ○「振り返ろう」では、学習の目標と連動した自己評価項目に照らし合わせながら、「○=できた △=もう少し」から選び、枠に直接記入させるようにしている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○「試し書き」で硬筆、「考えよう」で毛筆の課題を見つけ解決し、「生かそう」で再度硬筆の書き方を学習する流れになっている。 ○基本点画を学習する単元の終末に、これまで毛筆で学習したことを硬筆で確認できる「学習を生かして書く」という教材を設けている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○「学校生活に生かして書く」等の項目で、レポートの書き方や書体の活用例等を紹介し、社会生活との関わりを示している。 </p>	
資 料	<p> ○「姿勢と用具の使い方」について写真を使って解説している。また、「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとの部首別に楷書体と行書体を併記している。 ○巻末には、「書式の教室」「書き初め」「補充教材集」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○「まなびリンク」マークのある教材では、教科書に掲載されている毛筆教材について書いている様子を真上から撮影した動画を見られるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きの右ページに学習目標と教材文字、左ページに学習の流れを配している。学習の中心事項について、書き込み欄を設けて記し、学習課題に結びつくよう工夫している。筆圧を「1の力・2の力・3の力」と示し、運筆指導に対応している。 </p>	
総 括	<p> ○系統的・段階的に見通せる構成、教材配列になっている。 ○主体的・対話的で深い学びへ向かえるよう、話し合い活動が盛り込まれ、生きてはたらく書写力、思考をはたらかせて書く国語の表現力を高める教材を掲載している。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学書写</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光村</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。三つの過程を設け単元を展開し、知識・技能の定着を図ろうとしている。 ○「書写ブック」を用いて硬筆課題に取り組み、毛筆での学習を定着させようとしている。毛筆では、筆使いや穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「考えよう」の問いにより、文字を観察・比較等することでその差異に気づき、自ら学習のポイントを見つけられるよう構成している。 ○単元の終末に「読みやすさ」を目指した効果的な文字の選択や相手の設定等、学習を生かした表現活動に取り組めるよう構成している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学習の進め方」で、①課題について考える（学習の窓）②書き方を確かめ、毛筆で書く③学習したことを生かして書く（学習を振り返る）、という流れを説明している。 ○「学習を振り返る」では、学習の目標と連動した自己評価項目に照らし合わせながら、振り返らせるようにしている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○毛筆による基本点画を学習した後、学習したことを生かして硬筆で書く、「生かそう」という教材が設定され、毛筆と硬筆の関連を図っている。 ○毛筆の点画を書く際に学んだことを硬筆においても確かめられるよう「書写ブック」という硬筆教材を設けている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○「日常に役立つ書式」や「国語・学校生活」の項目で、手紙の書き方や壁新聞の作り方等の活用例を示し、社会生活との関わりを示している。 </p>	
資 料	<p> ○「姿勢、筆記用具の持ち方」について写真を使って解説している。また、「常用漢字表」「人名漢字表」は楷書体と行書体を併記している。 ○巻末には「日常に役立つ書式」「書き初め」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○二次元コードで示された「教科書連動コンテンツ」では、用具の準備や運筆など学習に役立つ動画を見られるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きで学習目標と学習の流れ、次ページに教材文字を配している。学習の中心事項を文章で記し、学習課題に結びつくよう工夫している。「始筆・送筆・終筆」を「トン・スー・トン」、筆圧を「1・2・3」と示し、運筆指導に対応している。 </p>	
総 括	<p> ○「学習の進め方」とともに、学習のポイントを「学習の窓」で示している。 ○「書写ブック」で、毛筆で学習したことを硬筆で繰り返し学習できるよう工夫している。書写で身に付けた力を、社会生活に生かせるような教材を掲載している。 </p>	

国語科（書写） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数	1年	146	130	146	158
	2年				
	3年				
2 単元数	1年	3	3	3	2
	2年	3	3	3	2
	3年	1	1	3	1

○指導事項等の教材数について

内容		学年	東書	三省堂	教出	光村	
1 総教材数 ※本編中における主たる手本の数		1年	6	8	8	6	
		2年	6	5	6	5	
		3年	1	1	3	3	
2 手本の種別数	毛筆	漢字の楷書及び 調和した仮名	1年	2	2	2	2
			2年	0	0	0	0
			3年	0	0	0	0
	硬筆	漢字の行書及び 調和した仮名	1年	2	3	3	3
			2年	4	3	3	4
			3年	1	1	2	2
	3 教材の扱い種別数	硬筆と毛筆との関連を図った教材数	1年	7	5	8	4
			2年	5	4	4	4
			3年	0	0	2	0
目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書く教材数		1年	0	1	1	0	
		2年	3	2	1	1	
		3年	2	1	1	1	
社会生活に役立つ学習のための教材数		1年	3	1	2	1	
		2年	2	1	2	2	
		3年	1	1	1	1	

社会科（地理的分野）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 0.5em;">○○○○○ ○○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるように、どのような工夫が見られるか。 ○調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めるために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の配置、数、種類などに、どのような工夫が見られるか。 ○事例の選択、資料の取り上げ方など、学習効果を高めるために、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">新しい社会 地理</p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1ページの内容が、「学習課題」から本文、整理・まとめ「チェック&トライ」の流れで構造化されている。また、単元の最後に「基礎・基本のまとめ」を設けており、基本的な知識の定着が図れるように工夫されている。 ○地図の見方や読み取り方、統計資料の作成等地理的技能を身に付けるために「スキル・アップ」が設定されており、学習に必要な技能の定着を図れるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入部に、その単元の学習過程で働かせる「見方・考え方」を明示したコーナーを設けており、学習を深める中で、言語活動の充実が図れるように工夫されている。 ○地理的事象や地域的特色について、多彩な思考ツールを用いて整理することにより、主体的に思考・判断した内容を適切に表現する力を身に付けられるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の諸地域の学習の導入や、「地域の在り方」の学習で「持続可能な開発目標」を取り上げ、現代的な諸課題を意識・理解しながら、学習をすすめられるように工夫されている。 ○「地域の在り方」の学習では、学習してきたことを振り返りながら、地域の課題や変容に注目したり、地域の将来像を提案したりする活動を充実させ、主体的に社会の形成に参画する資質や能力を養えるように工夫されている。 <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入部で、単元全体を貫く「探究課題」を立て、「まとめの活動」でその解決を補助する「探究のステップ」に取り組むことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。 ○小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」や「導入の活動」「まとめの活動」等を設け、対話的な活動を実践することにより深い学びができるように工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「地理にアクセス」や「インタビューコラム」「もっと地理」を掲載し、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。 ○ICT機器を活用して利用できる「Dマークコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての文字に、UDフォントを使用しており、ふりがなはゴシック体を使用している。難解な用語について、巻末に用語解説を設けている。 ○見開きページごとに学習課題が設けられている。導入部、展開部、終結部の形で構造化されたレイアウトとなっている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「導入の活動」で単元全体を貫く「探究課題」を立て、1単位時間ごとに「学習課題」を解決し、思考ツールを使った「まとめの活動」で「探究課題」を解決する流れが構造化されている。 ○他分野と関連している資料や特設ページには、「分野関連マーク」が設定され、三分野の系統的な学習が展開できるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 地理 地域にまなぶ</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1ページの始めに「学習課題」を掲げ、1単位時間の内容を整理しながらまとめる活動ができるように「確認コーナー」が設けられている。また、章・節の最後に「学習のまとめ」を設定し、基礎・基本の定着が図れるように工夫されている。 ○地図やグラフの扱い方等を学習する「地理の技」コーナーを設定し、個人やグループ学習を通じて、地理の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるように配慮されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学習の最後に「表現」のコーナーを設定し、振り返りの学習として自分の言葉でまとめたり、対話活動をしたりすることで思考力・判断力・表現力の向上が図れるように工夫されている。 ○学習の流れに即して「読み解こう」や「Q」のコーナーが設けられ、(地図・グラフ・絵・図解等の)資料を読み取って考察することで、地理的な見方・考え方が鍛えられるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界地誌の導入ページで、州ごとの主題とともに「持続可能な開発目標」と関連する特徴的な地球的課題を扱い、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら考察できるように工夫されている。 ○三分野を通じて、地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々等の事例を積極的に取り上げ、社会の形成者としての自覚と参画への意思を養えるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○タイトルに学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題をおくとともに、生徒が課題意識を明確にすることができるように配慮している。「学習課題」から展開していく課題解決的な学習の流れに沿って教材や資料が掲載されている。 ○「確認/表現」コーナーでは、知識・理解や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返り、生徒が他者と意見交流したり、自ら学び、自ら考える学習に取り組んだりすることにより、学びが深まるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭や折り込みページ・扉ページに資料や写真を大きく掲載することで、地図への興味・関心が高まるように工夫されている。 ○章・節の扉ページに「まなびリンク」を設けており、ウェブサイトから、学習に役立つさまざまな情報にアクセスできるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUDフォントによる黒文字を使用している。難解な用語や補足説明の必要な箇所について、巻末に用語解説を設けている。 ○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文と資料の関連を番号で示すことで、本文と資料が結びつきやすくなるよう工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○章・節といった「内容のまとめり」ごとに、学習の見通しが端的に示されている。「学習のまとめと表現」では、学習の振り返りとして、自分の言葉で表現したり意見を交換したりする活動を行い、段階的に学習が深められるように配慮されている。 ○三分野の学びを関連づけるために「関連」マークが設定されており、系統的な学習が展開できるように工夫されている。 	

書名 項目	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	46 帝 国
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開き 1 時間の内容が「学習課題」から本文、振り返りという展開で構成されている。本文には、全編にわたり地理的事象のしくみや概念等の基本的な知識が理解できるように、因果関係をふまえた上で、具体例を挙げながら記述されている。 ○資料の読み取りやグラフの作成等の力を伸ばすための「技能をみがく」コーナーが設けられ、「地理的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きの右下の「説明しよう」では、本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられ、言語活動の充実により、思考・判断・表現力の育成ができるように工夫されている。 ○各章末には「章（節）の学習を振り返ろう」が配置され、章の学習で得た知識を生かして、地理的な見方・考え方を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設けられている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○コラム「未来に向けて」が掲載され、持続可能な社会をつくるための人々の取組を示すことで、社会に対し生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考えることができるよう工夫されている。 ○最終単元の「地域の在り方を考える」では、「持続可能な社会」を実現する例を提示し、より具体的に地域の在り方を構想し、社会の発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○「章（節）の学習を振り返ろう」では、「章（節）の問い」に対して「地理的な見方・考え方」を働かせて考えるステップを設ける等、課題解決的な学習ができるように工夫されている。 ○「確認しよう」「説明しよう」のコーナーで、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いを設けることで、思考力・判断力・表現力が育成されるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○写真や地図、グラフ等が大きく見やすく提示され、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。 ○ICT機器を活用して利用できる二次元コードが設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。 </p>	
表記・ 表現	<p> ○文字はUDフォントを使用している。用語解説や関連資料について、本文のページの側注欄に設けている。 ○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文、資料、側注等が統一されたレイアウトで配置されている。 </p>	
総 括	<p> ○章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に「単元を貫く問い」が設けられており、学習の見通し・振り返り活動の基本的な流れが示され、見通しをもった学習活動につながるよう工夫されている。 ○三分野の学びを関連づけるために導入、単元を貫く問いの設定、学習の振り返りに一貫性をもたせ、スムーズな学習が展開できるように工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学社会 地理的分野</h1>	116 日 文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1ページの始めに「学習課題」を明示し、本文や資料で学び、最後に「確認」コーナーが設定されており、習得した知識・技能を文章化・言語化できるように工夫されている。 ○「トライ」のコーナーを設定し、必要な情報の読み取り等の技能を高められるようにしている。また、「スキルUP」を設定し、生徒の発達の段階に応じて、必要な技能を系統立てて習得できるように工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「アクティビティ」等のコーナーで、思考力・判断力・表現力の向上を図る場面を設定し、生徒が自分の言葉で表現できるような言語活動の充実を図ることができるように工夫されている。 ○地理的な見方・考え方を働かせる問いを「深めようコーナー」として設け、習得した知識を定着させ活用させることで、思考力・判断力・表現力等の向上を図ることができるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本の諸地域」の章末で「持続可能な開発目標」を示し、これまでの学習をその視点から振り返るとともに、「地域のあり方」では、地域の課題を見出し、地域の在り方を構想できるように工夫されている。 ○各章末において「ふりかえる」「アクティビティ」「チャレンジ地理」等で、主体的に学習に取り組む態度、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力、互いのよさを生かして協働する力等が培えるように工夫されている。 <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地理との出会い」で地理的な見方・考え方をつかみ、本文ページの「見方・考え方コーナー」で学習課題の解決に向けた手がかりとなる地理的な見方・考え方を働かせることができるように工夫されている。 ○「単元のふりかえり」や「アクティビティ」「チャレンジ地理」のコーナーを設け、学習内容の理解を深める主体的・対話的な活動ができるように工夫されている。主体的に考察できる今日的課題が取り上げられている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真を見て考えるクイズや現地の人を言葉を紹介する「声コーナー」等が設けられており、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。 ○ICT機器を活用して利用できる「教科書QRコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUDフォントを使用している。巻末に用語解説を設け、地理的用語を6種類に区分して解説している。 ○見開きページごとに学習課題を設けている。導入資料、学習課題、本文図版、確認等が統一されたレイアウトで配置されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習課題」と「見方・考え方」が明確に示され、見通しをもった学習がすすめられるように工夫されている。単元の終わりには「学習のまとめ」が設けられ、基礎基本の定着と学習内容を深められるよう構成が工夫されている。 ○「連携コーナー」や章の導入ページで他分野と関連した資料を掲載することで、系統的な学習が展開できるように工夫されている。 	

社会科（地理的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数

内容	東書	教出	帝国	日文
A 世界と日本の地域構成	27	19	24	22
(1) 地域構成	27	19	24	22
B 世界の様々な地域	107	101	102	95
(1) 世界各地の人々の生活と環境	21	19	19	20
(2) 世界の諸地域	86	82	83	75
C 日本の様々な地域	142	149	166	156
(1) 地域調査の手法	16	14	12	20
(2) 日本の地域的特色と地域区分	27	26	28	25
(3) 日本の諸地域	87	101	115	100
(4) 地域の在り方	12	8	11	11
索引	8	10	4	8
資料ページ	13	22	11	14
総ページ数※目録に記載されたページ数	302	308	310	298

※総ページ数には、中表紙や巻末資料も含まれているため合計と一致しない。

○地域の取り上げ方

B (2) 「世界の諸地域」で取り上げている主題

	東書	教出	帝国	日文
① アジア	急速な都市の成長と変化	経済の発展	急速な経済成長	人口や経済発展
② ヨーロッパ	国どうしの統合による変化	国々の結びつき	国どうしの結びつきの強まり	国境をこえた統合
③ アフリカ	国際的な支援からの自立	他地域からの支援の必要性	特定の産物に頼る経済	自立のための開発と国際協力
④ 北アメリカ	多くの人々を引き付ける地域	先進的で多様な産業	巨大な産業	世界に影響をあたえる産業
⑤ 南アメリカ	開発の進展と環境問題	自然破壊と都市の人口増加	農地や鉱山の開発	開発と環境保全
⑥ オセアニア	強まるアジアとの結びつき	他地域との関係の強化	他地域との関係	他文化が共生する社会

C (1) 「地域調査の手法」で取り上げている地域、主題、調査・まとめ

	東書	教出	帝国	日文
地域	高知市	名古屋市	東京都練馬区	京都市伏見区
主題	防災	自然災害	人口と農業	自然と防災・交通と観光
調査・まとめ	防災マップ、インターネット、文献資料、統計資料、空中写真、観光パンフレット、地形図、聞き取り、野外観察、イラストマップ、表、図、班による発表	地形図の読み取り・比較、現地の観察、聞き取り、文献資料、統計資料、博物館や資料館、イラストマップ、模造紙、班による発表	野外調査、聞き取り、地形図や地図、写真、文献資料・統計資料、新旧地形図、空中写真、航空写真、調査ノート、インターネット、グラフ、主題図、班による発表	空中写真、地形図、デジタル地図、新旧地形図、文献資料、インターネット、野外観察、統計資料、聞き取り、ハザードマップ、レポート、壁新聞、プレゼンテーションソフト、班による発表

C (3) 「日本の諸地域」の考察の仕方とページ数 * () はページ数

	東書	教出	帝国	日文
九州地方	自然環境 (12)	自然環境 (14)	自然環境 (16)	自然環境 (14)
中国・四国地方	交通や通信 (12)	人口や都市・村落 (14)	交通や通信 (16)	人口や都市・村落 (14)
近畿地方	人口や都市・村落 (12)	歴史的背景 (14)	環境保全 (16)	歴史的背景 (14)
中部地方	産業 (12)	産業 (14)	産業 (16)	産業 (14)
関東地方	交通や通信 (12)	交通や通信 (14)	人口や都市・村落 (18)	交通や通信 (14)
東北地方	生活・文化 (12)	生活・文化 (14)	生活・文化 (16)	持続可能な社会づくり (14)
北海道地方	自然環境 (12)	自然環境 (16)	自然環境 (16)	自然環境 (14)

C (4) 「地域の在り方」における地域的な課題の扱い方

	内容
東書	宮崎市を例に、「住み続けられるまちづくり」の在り方について考察する。
教出	多摩ニュータウンを例に、地域の課題を調査し、その解決方法について考える。
帝国	京都市を例に、地域の疑問を調査し、地域の課題や将来像を考える。
日文	京都市を例に、地域の課題をとらえ、自分たちにできることを考える。

○埼玉県の地理的事象 ※県名のみの場合を除く

	内容
東書	過密地域 (川口市) と過疎地域 (東秩父村) の人口ピラミッド、関東平野に広がる畑作地の写真 (三芳町)
教出	工場働くベトナム人の写真 (加須市)、首都圏外郭放水路の写真 (春日部市)、国内最高気温を更新した熊谷市の写真、さいたま新都心の写真、京浜工業地帯と北関東工業地域の写真 (本庄市)、ブルーベリー狩りを楽しむ観光客の写真 (美里町)
帝国	日本最大級のショッピングセンターの写真 (越谷市)、住宅地や畑が広がる関東平野の写真 (深谷市)、首都圏外郭放水路の写真と地図 (春日部市)、東京大都市圏の地価の比較のグラフ (所沢市)、政令指定都市 (さいたま市)
日文	内陸型の工業地域の写真 (川越市)、政令指定都市 (さいたま市)、衛星都市の住宅地の写真 (桶川市)、さいたま市 (さいたま新都心)

○北方領土・竹島等の領土に関する記述

	北方	竹島	尖閣	東西南北端	内容
東書	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道東方の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土と呼ばれ、根室市などに属する日本固有の領土です。しかし、現在はロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔竹島〕竹島は、島根県隠岐の島町に属し、隠岐諸島の北西、約150kmに位置する日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しているため、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土で、中心である魚釣島は、石垣島の北、約170kmに位置します。日本が実効支配をしているため、領土問題はありませんが、中国や台湾が領有権を主張しています。</p> <p>コラム「新しく広がった領土（西之島新島）」コラム「漁業資源にめぐまれた竹島」コラム「貴重な自然が残る北方領土」コラム「資源が期待される尖閣諸島」</p>
教出	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土と呼びます。北方領土は1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土には約17000人の日本人が生活していましたが、強制退去させられました。北方領土はソ連の解体後も現在に至るまでロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対し、日本固有の領土である北方領土の返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。一方で、1992年に始まった北方領土へのビザなし交流など民間での友好的な結びつきは続いています。</p> <p>〔竹島〕竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行ってきました。1905年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政の下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始めました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じ、2012年、日本は島々の大半を国有化しました。</p> <p>コラム「日本の最南端をめぐらる問題」年表 「北方領土に関する主なできごと」</p>
帝国	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の北東部にある歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島は、北方領土とよばれ、北海道根室市などに属する日本固有の領土です。1855年に、日本とロシアの国境を択捉島と得撫島の間で確認してから、北方領土を他の国の領土とする条約が結ばれたことはありません。北方領土の近海は水産資源が豊かで、かつて多くの日本人がこれらの島に住んでいました。しかし、北大領土は1945年に、日本との条約を無視して一方的に侵攻してきたソビエト連邦に占領され、日本人は立ちのかわされました。ソビエト連邦は、サンフランシスコ平和条約に署名せず、現在までロシアが不正に占拠した状態となっています。日本は、北方領土の返還に向けてロシアと平和条約を結ぶため、交渉を続けています。</p> <p>〔竹島〕日本海にある竹島は、島根県隠岐の島町に属する日本固有の領土です。17世紀には現在の鳥取県の人々が漁を行っており、1905年に明治政府が島根県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。しかし、サンフランシスコ平和条約で竹島に対する主張を退けられた韓国は、1952年に海洋への権利を唱えて一方的に公海の上に境界線を引き、竹島に海洋警察隊や灯台を置いて、不法に占拠しています。日本はこれに抗議し、国際司法裁判所での話し合いをたびたび呼びかけていますが、韓国が応じていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕東シナ海にある尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土です。明治政府が、ほかの国の支配が及んでいないことを慎重に確認したうえで、1895年に沖縄県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。その後、一時は島で200人以上が暮らし、かつおぶし工場も造られました。サンフランシスコ平和条約でも、南西諸島の一部として日本の領土とされました。尖閣諸島をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはなく、日本政府による管理も及んでいるため、ほかの国との間で解決すべき領有をめぐらる問題はありません。尖閣諸島では、1960年代には、石油などの資源が周辺の海底にある可能性が注目され、1970年代に入ると、中国などが領有権を主張するようになりました。その後、日本は2012年に、尖閣諸島を平穏に維持、管理するために、その大半を国有化しました。</p> <p>コラム「護岸工事によって守られた沖ノ島」コラム「漁業が盛んだった昔の竹島」</p>

<p>日文</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>【北方領土】北方領土は、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島からなる日本固有の領土です。面積は合計約 5000 ㎞²もあり、福岡県や千葉県とほぼ同じ広さです。日本は 18 世紀ごろから本格的な開発を始め、1855 年の日露通好条約で、日本の領土であることが確認されました。周辺の海域は、こんぶやかになどの水産資源が豊富で、かつては多くの日本人が漁業をしながら生活していました。しかし、1945 年の第二次世界大戦後にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるときに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。</p> <p>【竹島】竹島は、本州から約 200km 離れた日本海にある日本固有の領土です。竹島周辺は豊かな漁場で、17 世紀初めには日本人が漁業などに利用していました。1905 年には国際法に従って島根県に編入されました。ところが 1952 年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取り込み、警備隊員を常駐させたり、施設を作ったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています。</p> <p>【尖閣諸島を取り巻く情勢】尖閣諸島は、石垣島から約 170km 離れた東シナ海にあります。1895 年に日本が自国の領土であることを宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題は存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘され、1970 年代になって、中国が尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。最近では、中国の船が日本の領海にたびたび侵入してくるため、日本は、中国に厳重に抗議し、領土の保全に取り組んでいます。</p> <p>コラム「沖ノ島島を守るために」</p>
-----------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

社会科（歴史的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 0.5em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解できるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などについて、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <p>○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>（全体的な特徴、その他）</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 歴史</h1>	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&トライ」で構成されている。また、小学校の学習事項が年表に位置付けられている。 ○学習に必要な技能を身に付ける「スキル・アップ」が設けられている。また、身に付けた技能を活用する「読み取る」「まとめる」などのコーナーが設けられている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「チェック&トライ」では、学習内容の説明や要約、原因や結果をまとめたりする等、事象を解釈して表現できるように工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「クラゲチャート」、「Xチャート」、「ピラミッドストラクチャ」等の思考を整理するツールを活用した学習活動が設けられている。 ○「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりすることで、歴史的な見方・考え方を働かせてより深く思考・判断できるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○1単位時間の学習で追究する学習課題を示し、生徒が見通しをもって主体的に学習を進められるように工夫されている。 ○生徒キャラクターの会話で、生徒が探究課題を主体的に解決するヒントが示されている。また、思考を整理するための思考ツールが提示されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入に小学校の振り返りと小集団の協働的な活動が設けられ、単元全体を貫く「探究課題」を立てて、学習に見通しをもたせるように工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「探究のステップ」が設けられ、見開きごとの活動が段階的に「探究課題」の解決へとつなげられるように構成されている。 ○「みんなでチャレンジ」では、対話的な学習の場面が設けられ、持続可能な社会の実現に向けて構想し、積極的に社会参画したり、他者と協働したりしながら、より良い社会を築こうとする意識や態度を養えるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や探究の中心となる資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵のほか、資料の大きさが記されている。 ○Dマークや二次元コードを付し、インターネットを使った学習ができるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○見開きで学習している時期を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進めることができるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	中学社会 歴史 未来をひらく	17 教 出
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、本文、資料、学習活動で構成されている。また、本時の学習をまとめる「確認」と「表現」が設けられている。 ○絵や写真、新聞、地図や系図等の学習の中で活用する資料について、資料活用の方法や手順を示している「歴史の技」が設けられている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「表現」では、学習内容を自分の言葉で説明したり、対話したりすることで事象を解釈して、表現できるように工夫されている。 ○「歴史の窓」やテーマ学習のページでは、個人やグループで歴史的事象について多面的・多角的な思考や理解を深められるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめと表現」では、時代の特色を言葉で説明する活動が設けられ、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○導入の「学習を始めよう」では、資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読みながら、章の学習が見通しをもって進められるように工夫されている。 ○生徒が自ら資料を読み解くために「読み解こう」のコーナーを設け、読み解きのガイドとして活用できるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入「学習を始めよう」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いが示され、見通しをもって学習が進められるように工夫されている。 ○本文とは視点を変えてとらえ直す「特設ページ」が設けられ、現代社会の諸課題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、これからの社会を築いていくため、自分たちには何が出来るかを考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習のきっかけや探究の中心となる、導入資料・中心資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、疑問点や解説が掲載されている。 ○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることが出来る「まなびリンク」が設けられている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○見開きに「時代スケール」として学習する時代の範囲を色で表し、小学校で学習した人物・中学校で学習する人物が識別できるように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体を通して、人権や平和、環境、災害・防災等、現代社会に見られるさまざまな課題や、それにつながる歴史を取り上げ、自己と社会・歴史とのつながりについて、考えを深められるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	46 帝 国
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入、学習課題、本文で構成されている。また、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」で構成されている。 ○歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できる「技能をみがく」コーナーが設けられている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「説明しよう」では、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して自分の言葉でまとめ、表現できるように工夫されている。 ○章のはじめに設けられた「問い」は、時代の特色を論理的に説明する際の手がかりとなるように工夫されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを整理し、話し合い、説明することで学びを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「タイムトラベル」では、単元のはじめで時代の特色を見通し、本文と関連付けたり、眺め直したりすることで、時代の振り返りができるように工夫している。 ○中学生のキャラクターが発問や気づき、学習の手がかりや示唆等を提示することで、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○「章の問い」、「節の問い」、「見開きの問い」（学習課題）と単元のまとまりで課題解決的な学習、深い学びにつなげられるように工夫されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、見開きから節、節から章へと段階的に振り返りを行い、学習を積み重ねて課題追究ができるように構成されている。 ○「多面的・多角的に考えてみよう」と「多面的・多角的に構想する」では、社会に見られた課題に対する当時のさまざまな立場や選択を通して考察し、さまざまな立場と多様性を踏まえた社会の成長を構想することを促すように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、学習の手がかりが示されている。 ○二次元コードを読み込むことで、「タイムトラベル」コンテンツにアクセスしたり、学習の理解を助ける動画等を閲覧できたりするように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が2つ示されている。 ○見開きの右端に「年表インデックス」が掲載され、巻頭の日本の歴史年表・巻末の世界史年表と照らし合わせて確認するように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体を通して、さまざまな立場や選択を踏まえて考察する活動が設けられたり、歴史上の人々が連携・協働して課題の解決に取り組む姿が紹介されたりして、多面的・多角的に歴史をとらえられるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">中学歴史 日本と世界</h2>	81 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">山 川</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入の発問、本文、「ステップアップ」による振り返りで構成され、世界史も含めた歴史全体の流れをつかめるようにしている。 ○「歴史との対話」では、歴史を学ぶための基礎知識と、歴史の調べ方を示し、歴史学習に必要な技術が習得できるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「ステップアップ」では、授業で学んだことを整理し、その後の歴史や現代の自分たちにどう影響したか、考えられるように工夫されている。 ○「歴史を考えよう」では、美術作品や史料・地図、憲法や選挙等が取り上げられ、話し合いや考察を通して歴史の思考力を養えるように工夫されている。 ○章末「まとめ」では、時代全体を俯瞰して考えるための問いかけがあり、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「身近な地域を調べよう」では調査の順序、注意事項等を示し、生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○生徒にとって意味の分かりにくい用語に用語解説を付している。同じページに示すことで、理解し易いように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○学習の見通しをもてるように、各章の冒頭に視覚的に歴史の流れをつかめるような資料を用いたり、見開きの冒頭に学習課題が明示されたりしている。 ○「身近な地域を調べよう」では、実際の中学生を想定し、調査の順序や注意事項を示して、生徒が主体的に課題を追究することができるように工夫されている。 ○「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」では、史料の細部をクローズアップしたり発掘調査の結果を踏まえたりすることで、さまざま角度から課題を追究できるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。 ○二次元コードを付し、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見る等、課題を追究した学習ができるように工夫されている。 </p>	
表記・ 表現	<p> ○地図・グラフなどは、UDに配慮されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問が示されている。 ○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。 ○本文は、常体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体が歴史を学ぶ力を養うために「流れをつかむ」「歴史を考える」「世界史を知る」という3つのポイントで構成されている。また、高校につながる教科書として構成・叙述の流れや資料等が工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">中学社会 歴史的分野</h2>	116 目 文
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「確認」で構成され、「確認」では学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されている。 ○「スキルUP」では、歴史学習を進めるにあたって必要な技能を解説している。社会的事象等について調べ、まとめる技能が身に付けられるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「確認」では、学習内容を理解しているか確認するために、自分の言葉で説明する問いが設けられている。 ○章末「とらえよう！○○の特色」では、習得した知識を関連させ、時代の特色を考え説明したり、話し合いや意見交換したりする学習活動が設けられている。 ○見開きの「見方・考え方」では、学習課題の解決に向けた手がかりが示され、「深めよう」では、問いを通して学習課題の理解が深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「歴史との対話を未来に活かす」では、テーマ別さくいが設けられ、災害・政治参加・世界平和について考える学習課題が示されている。 ○地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコーナーや特設ページが設けられている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を概観し、学習の「めあて」を明示して学習の見通しをもてるように工夫されている。 ○歴史の学習の最後「『歴史との対話』を未来に活かす」では、課題の解決に向けて歴史をふまえて未来を考える学習活動が設けられている。 ○「『歴史との対話』を未来に活かす」や「先人に学ぶ」では、現代の課題の背景や人権、環境、平和、防災、減災への先人たちの取り組みを学び、解決の手立てについて生徒が歴史を踏まえて考えることができるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の導入となる写真資料や関心を高めるための地図が大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料の内容を読み取ったり、読み取ったことを基に表現したりする活動が示されている。 ○教科書内容の理解を助ける動画やワークシートなどの教科書QRコンテンツをウェブサイトで公開し、教科書には「デジタルマーク」が表示されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と手がかり、学習内容を理解するための問いが示されている。 ○見開きの右端に学習している「時代」を色で示した年表が掲載されている。見開きの下部には小学校で学習した人物や地理・公民との連携が示されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体を「私たちと歴史」「古代までの日本と世界」「近世の日本と世界」「近代の日本と世界」「現代の日本と世界」の6つに編成し、詳細な学習に陥ることがないように学習内容の焦点化を図るための配慮がされている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">[最新] 新しい日本の歴史</h1>	227 育鵬社
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成され、つかむ、調べる、まとめる、表現するという配列になっている。 ○「地域の歴史を調べてみよう」では、身近な地域の歴史の情報を収集し、レポートにまとめ、発表するという方法が示されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きの学習のまとめでは、学習内容をレポートや論述形式でまとめたり、解釈したりする問いが設けられている。 ○『私の歴史博物館』をデザインしてみよう』では、展示方法を考えさせることで、資料から情報を効果的に調べ、まとめられるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する学習活動が設けられている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○序章「歴史探検！」では、歴史を学ぶ意欲が高まるように、小学校での学習を振り返ったり、特定の人物について調べ、まとめ、発表したりする活動が設けられている。 ○「歴史のターニングポイント」では、生徒が、「もし、その時、私が当事者だったら」という意識で、歴史と向き合えるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○見通しをもちながら学習を進めることができるように、見開きごとに資料を使い問題解決できるような学習課題が明示されている。 ○各章冒頭の「〇〇の世界へようこそ！」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、日本の歴史を大観し、表現する学習活動が設けられている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。導入資料には発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。 ○「日本の美の形」「歴史絵巻」等のページは、生徒が視覚的に興味をもって取り組めるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○図版は、色覚特性を踏まえた判別しやすい色が使われている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習のまとめの二つの課題が示されている。 ○各章の章扉に「歴史絵巻」「歴史モノサシ」が掲載され、歴史の大きな流れと現在の学習範囲が確認できるように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB判が採用されている。 ○学習内容の理解をより深める「歴史ズームイン」、多面的・多角的に考える視点を提示する「歴史ビュー」、歴史上の人物の活躍を紹介する「人物クローズアップ」等のコラムが設けられ、学習に具体性や発展性をもたせるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">ともに学ぶ人間の歴史</h1>	229 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 学び舎 </div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○章の扉のページで部の学習課題があり、章のあと・部のおわりに章をふりかえる・部の学習のまとめが設けられている。 ○「地域の博物館で調べる」でインターネットや博物館を利用した調べ学習・体験者からの聞き取り・討論の方法等が紹介されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○特設ページ「歴史を体験する」では、活動を通して考えたことを話し合ったり、発表したりする問いが設けられている。 ○「章の振り返り」では、歴史事象をさまざまに関連付けさせたり、意見交換をさせたりして、グループ活動等を通して深められるように課題が設定されている。 ○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、各時代の特色を多面的・多角的に考察し、学びを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○特色のある図版と記述等から疑問や問いが生まれるように工夫されている。また、本文の太字をなくしている。 ○章の扉のページに北極を中心とした地図を置き、テーマに沿って世界各地のようすを想像・予想できるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入として、扉ページで各時代の「学習課題」が示されており、学習を進めながら時代の特色を考えていく構成になっている。 ○現代史を充実させ、歴史を今日の課題と結びつけ、より良い社会の実現に向けて考えられるように公民学習につなげられるように工夫されている。 ○現代史の学習では、21世紀までテーマを設定し、歴史的な事象を今日の社会と結びつけ、より良い日本の社会と世界の実現を視野に、さまざまな社会の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵が掲載されている。 ○側注・グラフ・資料等から、歴史的な事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○地図・グラフは、色覚特性に配慮されている。 ○見開きの見出しは、太字で表記されている。見開きに生徒の関心を引き出すタイトルと見通しをもつための学習課題が示されている。 ○巻末の年表では、日本の社会・政治・経済の動きと日本の文化・宗教が世界の出来事と関連付けて掲載されている。 ○本文は、敬体で記され、学年に応じた文章表現や漢字が使用されている。資料には、見開きで通し番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、A判が採用されている。 ○生徒の主体的な学びの実現を目指した図版や記述の工夫がされている。女性や子ども等、さまざまな分野・階級の人びとの生活を学ぶことで、誰もが個人として尊重し合える社会について考えを深められるように配慮されている。 </p>	

社会科（歴史的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数 ※教科書に記されているページ数の内訳を数えたもの

内容		東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
A	(1) 私たちと歴史	10	9	7	3	11	13	6
	(2) 身近な地域の歴史	16	19	31	19	11	10	4
B	(1) 古代までの日本	42	40	42	44	48	50	44
	(2) 中世の日本	34	34	34	38	40	34	32
	(3) 近世の日本	48	48	48	50	50	52	48
C	(1) 近代の日本と世界	98	104	96	97	99	98	110
	(2) 現代の日本と世界	32	37	30	28	44	38	34
その他（資料ページ・索引）		28	27	22	15	31	23	30
総ページ数		308	318	310	296	336	320	308

※総ページ数は目録に記載されたページ数

○基礎・基本の定着

(1)取り上げている日本の歴史上の人物数（索引から）

※日本において我が国の歴史とかかわった外国人を含む。

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
古代まで	32	35	29	32	29	44	25
中世	65	59	52	59	48	55	44
近世	69	79	51	83	47	104	51
近代	102	119	113	96	93	131	72
現代	29	31	33	17	13	45	23
合計	297	323	278	287	230	379	215

(2)我が国の歴史的背景として取り上げている世界の歴史のページ数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
古代まで	10	12	10	14	17	6	18
中世	2	2	0	4	2	2	6
近世	6	6	6	10	6	4	8
近代	24	24	20	26	22	14	34
現代	4	6	2	6	8	4	10
合計	46	50	38	60	55	30	76

(世界の歴史を中心に構成されたページを数えたもの)

○言語活動の充実

(1)各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現する学習

東書	○古代：古代日本のキーパーソンはだれだろう／○中世：古代との比較から中世の特色を探ろう／○近世：近世で最も活躍した身分はどれだろう／○近代：日本と世界との結び付きを考えよう、戦争へのターニングポイントは何だろう／○現代：現在の日本を形作ったものは何だろう
教出	○各章：学習のまとめと表現(○○の時代の移り変わりを確かめよう。○○の舞台を地図で確かめよう。○○について説明しよう。○○の時代の特色を考えよう。)
帝国	○各章：章の学習を振り返ろう(学んだ事を確かめよう。歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう)
山川	○各章：まとめ
日文	○古代：「文字の変化」／○中世：「法」／○近世：「幕府の収入」／○近代「明治政府の政策」「戦争」／○現代：「復興と成長の源」に着目して、時代の特色にせまろう
育鵬社	○各章：学習のまとめ(○○○の時代をふり返って考えてみよう)
学び舎	○各章：第○章をふりかえる／学習のまとめ／歴史を体験する

○社会に参画する資質・能力の育成

(1)身近な地域の歴史を調べる活動(具体的な事項)

	内容
東書	「地域の歴史を調べよう」(大陸への玄関口・福岡／戦国時代の城下町・一乗谷／会津藩の政治と産業／多文化共生都市・神戸／東京大空襲の記憶を伝える／広島復興と平和への思い)
教出	「身近な地域の歴史を調べよう」(地域の遺跡や古墳を訪ねて／地域の寺社を訪ねて／地域の街道や港を訪ねて／明治期の面影を訪ねて／大正・昭和初期の面影を訪ねて／移り変わる戦後の街を訪ねて)
帝国	「歴史を探ろう」(古墳から分かる当時の様子／東アジアに開かれた窓口 博多／琉球とアイヌの人々の暮らし／昆布ロードと北前船／世界有数の百万都市 江戸／世界に開かれた港 横浜／移住と開拓が進む北海道／「絹の道」と日本の製糸業／発展する産業都市 大阪・神戸／長野県から見る満州移民／戦場となった沖縄)
山川	「地域からのアプローチ」(奈良／福岡／平泉／金沢／札幌／広島／沖縄)
日文	「でかけよう！地域調べ」(史跡見学に行こう 平城宮跡を歩く－奈良県奈良市－／歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる－広島県福山市－／城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる－兵庫県姫路市－／近代化遺産を訪ねよう 富岡製糸場を調べる－群馬県富岡市－／戦争遺跡を訪ねよう 大阪の空襲を調べる－大阪府大阪市－／地域の環境の歴史を調べよう 公害克服の歴史を調べる－福岡県北九州市－)
育鵬社	「地域の歴史を調べてみよう」(大阪の歴史・ワクワク調査隊／横浜の歴史・ワクワク調査隊)
学び舎	「地域の博物館で調べる」／「歴史を体験する」(地域の歴史を歩く／一人ひとりの歴史・家族の歴史)

○埼玉県の歴史的事象 ※資料の出典が、埼玉県内の博物館等に所蔵されているものを含む。

	内容
東書	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／長善館（川越藩校）／渋沢栄一／1号機関車／秩父事件／増税に泣く国民／旧国名地図（武蔵）／各地の主な史跡（埼玉古墳群・吉見百穴）
教出	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／増税に泣く国民／渋沢栄一／原爆の図／各地の主な遺跡・史跡・できごと（高麗神社・吉見百穴・鉢形城跡）
帝国	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／職人尽絵／主な大名の配置（阿部）／江戸時代の交通・関所（栗橋）／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／重税に苦しむ国民／渋沢栄一／東京停車場之図
山川	稲荷山古墳出土の鉄剣／古代の行政区画（武蔵）／太平記絵巻／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一
日文	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／律令国家における行政区分（武蔵）／江戸時代の主な都市・城下町（岩槻）／黒船を見学する民衆／渋沢栄一／秩父事件／100年ほど前の田園調布（渋沢栄一らが開発）
育鵬社	人形埴輪／稲荷山古墳出土の鉄剣／前方後円墳の分布（稲荷山古墳）／男衾三郎絵詞／職人尽絵／江戸時代の城下町（岩槻）／宗門改帳／大工職人たち／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一／秩父事件／ノーベル賞・梶田隆章／各地の主な遺跡（吉見百穴・埼玉古墳群）
学び舎	農夫のはにわ／稲荷山古墳出土の鉄剣／平城京までかかる日数（武蔵）／千早城に立てこもる楠木正成軍／古代アンデス文化の土器／綿花の主な生産地（武蔵）／黒船を見物する人々／武州世直し一揆／廃藩置県（入間・埼玉）／最初の切符／歴史地図（秩父事件・稲荷山古墳）

社会科（公民的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	○○○○○ ○○○○○○	発行者番号 発行者名
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深められるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるため、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <p>○分野の学習において適切な課題を設定し、その課題の追究のための枠組みとなる多様な視点（概念など）に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>（全体的な特徴、その他）</p>	

書名 項目	<h1>新しい社会 公民</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○各章の導入で身近な生活をテーマにした活動が示されており、各章ごとに設定される「探究課題」は、社会との関わり方を考えるものにするすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、資料の読み取り方・収集方法等を紹介する「スキルアップ（9テーマ）」や、それを活用するコーナー「集める・読み取る・まとめる」が適宜設定されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を活用して考察する場面を示した「見方・考え方」や、小集団の協働的な活動を行う「みんなでチャレンジ（21テーマ）」が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○章の最初に「探究課題」を示し、「まとめの活動」において思考ツールを使った学習内容の整理・解決により何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を、学習内容を基に多面的・多角的に考察し、社会参画を促す「もっと公民（9テーマ）」が設定されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○「学習のはじめに」で章全体を貫く「探究課題」を設定し、「まとめの活動」で課題について追究・解決するようにしている。導入から振り返りまでの課題解決的な学習の流れを通して単元全体でまとまりを持たせるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、各章の導入等に他分野・他教科との関連を示すマークが付され、多面的・多角的に学習を進められるよう工夫されている。また、QRコードやURLのリンクから、他分野・他教科の紙面確認や補習用のシミュレーション、動画が活用できるようになっている。さらに、学習内容を深化させるための「公民にアクセス」コーナーや特設ページ「もっと公民（9テーマ）」が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面はUDフォントを採用し、資料の掲載部分には文字の読み取りに支障のない地色を敷いて区別する等、見やすくなるような工夫がされている。</p> <p>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「考える」等のコラムを活用し、課題解決に必要な情報を収集できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○章の導入の活動を通して、単元を貫く「探究課題」を立て、課題の解決を通して獲得した知識をまとめの段階で活用し振り返る流れとなっている。身近な事例を基に見方・考え方を働かせて現代社会の課題を追究・解決できるよう「まとめの活動」が設定されている。そこではグループ学習を通して多面的・多角的に考察することで理解を深め、社会参画する態度を養うよう工夫がされている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 公民とともに生きる</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○各章の導入で学習テーマに関連する実社会の写真資料や身近な例を示し、巻頭・巻末・終章においてSDGsというテーマを取り上げることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、技能や表現力を養うためのグループ活動等を紹介する「公民の技（10テーマ）」や、資料を読み取る手がかりとなる「読み解こう」が適宜設定されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、ディベート等の表現活動を行う「言葉で伝え合おう（6テーマ）」や、各章の最後に、現代社会の見方・考え方を働かせて考える「章全体のテーマ」について問題が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○各章の「学習のまとめと表現」では、資料を基にした話し合い活動を通して課題解決に取り組むことで何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○社会参画の意識を高めるために、日本の将来に関する資料に対して「読んで深く考えよう（6テーマ）」が設定されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○各章の導入で学習内容と章全体の課題を掲載することで見通しを持たせている。「学習のまとめと表現」では学習内容を振り返って整理し、章全体の課題の追究・解決に向けて考察・表現することで単元全体の流れをつかめるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、「まなびリンク」からウェブサイトを紹介して関連サイトから情報や資料を収集することができるよう工夫されている。また、見開きの左ページ上部に導入・中心資料が掲載され、資料と解説、キャラクターのコメントで資料の見方を示している。さらに、学習内容を深化させるために「公民の窓（38テーマ）」「読んで深く考えよう（6テーマ）」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面は色覚等の特性をふまえた配色やレイアウト、表現方法やUDフォントを採用し、学びやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間の内容理解の補助として本文の周りに用語解説を設け、「公民の技（10テーマ）」でグループ学習を通して技能や表現力を養えるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各章の学習のはじめに単元を貫く「学習課題」が提示され、それを解決するために学習を積み重ね、まとめの学習で振り返る流れとなっている。「学習のまとめと表現STEP2」では、思考ツールを活用して課題に取り組み、学習内容を統合・深化するよう工夫されている。また、「公民の窓（38テーマ）」により日本や国際社会の情勢についての認識を深めることで社会参画する態度を養うよう工夫されている。</p>	

書名 項目	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	46 帝 国
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各章の導入で日常の社会生活を鳥瞰したイラストを示し、そこから学習を開始するとともに、各章の振り返りでもそのイラストを再度活用してまとめを行うことで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、思考ツール等の技能を紹介する「技能をみがく（10テーマ）」や、資料を読み取る手がかりを示した「資料活用」の問いが適宜設定され、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を働かせながら現実社会に見られる課題について追究する「アクティブ公民（10テーマ）」や、単元を貫く問いを考察する「章の学習を振り返ろう」が設定されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○各章の「学習の前に」では学習内容を概観する導入や視点がイラストと共に示されており、章全体の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○章の問いについて、他者との意見交換を通して自分の考えを広げ、深め、答えを導いていく「章の学習を振り返ろう」が設定されている。</p> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <p>○「アクティブ公民（10テーマ）」では現実社会に見られる様々な課題が設定されている。グループ学習を通して様々な立場を踏まえた上で合意形成を目指す議論を行うことで、課題の追究・解決に向けて取り組めるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、二次元コードを利用することで、PC等での資料の閲覧や関連動画の視聴、振り返り問題の解答確認ができるようになっている。また、見開きの左ページ上部に生徒の身近な事例等の写真やイラストが導入資料として掲載され、資料活用の視点とともに示されている。さらに、学習内容を深化させるための「公民プラス（25テーマ）」や「未来に向けて（12テーマ）」が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面はUDフォントを採用し、色覚等の特性を踏まえ、折れ線グラフ等は、線種を変えることで色以外の情報からでも識別できるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「確認しよう」・「説明しよう」を活用して、学習内容の確認と振り返りができるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○教科書の最初に「学習のはじめに 夢に向かって」という記述があり、公民を学ぶ意義や学びと社会との関連性について記載されている。章のはじめに単元を貫く「章の問い」が明示され、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。「アクティブ公民（10テーマ）」では、様々な立場の違いにより起こる対立から合意形成を目指す活動を通して社会参画する態度を養うよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学社会 公民的分野</h1>	116 目 文
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各章の導入「学習のはじめに」では、身近な場面から学習内容と「見方・考え方」を示しつつ、編（章）末「チャレンジ公民（4テーマ）」では、社会の課題を考察・構想をすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるよう工夫されている。また、情報の読み取り等を行う「情報スキルアップ（3テーマ）」や、思考ツール習得のための「シンキングツール（9テーマ）」が適宜設定され、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を働かせながら学習理解を深める「アクティビティ（38テーマ）」や、社会の課題について考察・構想をする「チャレンジ公民（4テーマ）」が設定されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各編の導入では、その編で働かせる見方・考え方を概観する漫画が掲載されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○身近な地域の抱える課題や将来について考え、社会参画を促すための手がかりとなる「明日に向かって」が設定されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各1時間単位の学習の手がかりとして「学習課題」「見方・考え方」を示している。また、「アクティビティ（38テーマ）」「深めよう」を活用することで、学習内容の理解を深め、課題を追究・解決しやすくなるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、「デジタルマーク」の掲載ページは、ホームページから理解を補助する動画やワークシート等を利用できるようになっている。また、見開きの左ページ上部に写真やイラスト、グラフ等の資料が掲載され、キャラクターのコメントで資料の見方を示している。さらに、学習内容の理解を深めたり、発展して考えたりするために「公民+α（22テーマ）」や「深めよう」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面はUDフォントを採用し、グラフ・地図等の図版の配色や体裁に配慮し学びやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「見方・考え方」では働かせるべき視点を示し、学習内容を深く理解できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○教科書の内容全体を通して学習課題の解決に向けて働かせるべき見方・考え方が示されている。「学習の整理と活用」では「シンキングツール」を用いたグループ学習が示され、多面的・多角的に考察することで学びを深め、何を学んだかを捉えることができる。「明日に向かって」では学習した内容を活かし身近な地域の抱える課題や将来について考えることで、社会参画する態度を養うよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>新しい公民教科書</h1>	225 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">自由社</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○単元最後の「ここがポイント！」において、授業でおさえるべき確認事項を示し、「アクティブに深めよう（7テーマ）」という特設ページにて歴史的文化的背景や社会の仕組みについて考察することにより、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、学習内容を深めるための調べ学習や話合いの視点を示す「やってみよう」が適宜設定され、終章では「論文の書き方」等が示されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○思考力・判断力・表現力等を効果的に育成するため、各章最後にテーマを選択・考察し、表現する「学習の発展」や、現代社会の見方・考え方を働かせ歴史的文化的背景等について考察する「アクティブに深めよう（7テーマ）」が設定されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○各章の「学習のまとめと発展」では章の学習を発展させるためにテーマを選択し、既習事項を活かしてまとめることで何を学んだのかを捉えるよう工夫されている。</p> <p>○重要なことがらを深く理解するために関連する単元のそばに「もっと知りたい」という特設ページが設定されている。</p> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <p>○各単元の最初に学習課題が設定され、最後に授業でおさえるべき確認事項をまとめた「ここがポイント！」が示されている。これらの学習過程を通して基礎的・基本的な知識を習得させることを目指した学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、各単元の見開きには「ミニ知識」というコラムを設け、学習内容の理解をより深めようと工夫されている。また、巻頭で「世界に誇る日本の先端技術」、巻末で「日本の伝統的工芸品」の特集が生まれ、地図や写真を掲載して我が国の理解を深める工夫が見られる。さらに、学習内容を深化させるための調べ学習や話合い活動の視点を示した「やってみよう」が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面は重要語句にゴシック体を採用し、関連した単元に複数出てくるなど、公民分野のつながりを意識した学習を進めやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○1 単位時間の内容理解の補助として本文の周りに用語解説を設け、1 単位時間の最後に内容を総括する記載があり、学習課題を解決できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各小単元の学習課題を解決するための視点は各ページの最後に記載されているため、学習の見通しをもって取り組めるようになっている。重要語句は太字で示し、すべて巻末の索引に記載され、補足も測注に掲載されているため、基礎的・基本的な知識の習得を目指している。また、終章のレポート、ディベート等、習得した知識を活用し、学習内容を補足・深化させるよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">〔最新〕新しいみんなの公民</h1>	227 育鵬社
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各章の導入「入り口」では、学習内容の大筋を捉えさせる言語活動を示し、各章の章末「これから」では、社会に見られる課題について考察・構想をすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、ディベートの仕方等を示した「スキルアップ（7テーマ）」や資料について取り組む課題を示す「TRY」が適宜設定されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、見開きごとに学習内容を自分の言葉でまとめる鉛筆マークや、現代社会の見方・考え方を働かせ討論や考察等の小集団での協働的な活動を促す「やってみよう（17テーマ）」等が設定されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○各章の「入り口」では、章全体の内容を概観するためのグループ活動が設定されており、学習内容の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○各章の章末には、章で学習した内容を踏まえて、社会に見られる課題を自分事として考えさせ、社会参画への態度を養えるように「これから」が設定されている。</p> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <p>○見開き1単位時間の紙面で「つかむ」ための導入資料、「調べる」ための本文と図版・写真資料が配置されている。これらの資料を活用して「まとめる」ことで学習内容を深く理解し、課題を追究・解決する学び方の工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、図版や写真等の資料を大きく見せて掲載している。また、主な法令や年表、日本の伝統文化の一覧表等、学習資料を巻末に掲載したり、日本国憲法には難しい用語の解説を付けて理解を深めたりする工夫している。さらに、学習内容を深化させるための「学習を深めよう（49テーマ）」や、学習を発展させるための視点を示す「TRY」が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面は色覚特性を踏まえて、図版は判別しやすい色や表示にするなど見やすくなるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料が本文の周りに配置し、「学習を深めよう」では発展的な資料を示し、学習内容を深められるような工夫がされている。</p>	
総 括	<p>○冒頭に公民を学ぶ理由について様々な角度から記載されている。章の内容を「入り口」で概観させた上で学習を積み重ね「これから」で現代社会に見られる課題の解決や未来の姿について構想する流れとなっている。「やってみよう」では様々なテーマを基にディベート等の参加型学習を行い、知識を活用し社会的事象を個人と社会との関わりを中心に捉えられるよう工夫されている。</p>	

社会科（公民的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数

※教科書に記されたページ数を数えたもの

内容		東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
A	私たちと現代社会	31	25	26	28	40	27
(1)	私たちが生きる現代社会と文化の特色	18	14	16	18	21	18
(2)	現代社会を捉える枠組み	13	11	10	10	19	9
B	私たちと経済	51	62	64	54	43	51
(1)	市場の働きと経済	36	25	50	38	24	34
(2)	国民の生活と政府の役割	15	37	14	16	19	17
C	私たちと政治	88	88	80	88	76	78
(1)	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	37	43	38	44	41	39
(2)	民主政治と政治参加	51	45	42	44	35	39
D	私たちと国際社会の諸課題	38	42	40	45	58	42
(1)	世界平和と人類の福祉の増大	33	35	32	36	41	35
(2)	よりよい社会を目指して	5	7	8	9	17	7
その他（資料ページ・索引）		37	29	23	36	34	39
総ページ数※目録に記載されたページ数		262	272	246	264	256	256

※総ページ数には、目次や中表紙も含まれているため合計と一致しない。

○項目別取り上げた事項

(1) 現代社会を捉える枠組み（「対立」と「合意」、「効率」と「公正」など）を養う学習

	内容
東書	部活での体育館利用規則を作る事例/ある市の自転車の使用ルールを考える事例/市長になって条例を作る事例/コンビニエンスストアのお弁当を企画する事例など
教出	合唱コンクールの練習場所の割り振りを考える事例/ごみ収集所の設置場所を考える事例/まちづくりのアイデアを提言する事例/給食の作り方から考える事例など
帝国	マンションの騒音問題の解決を考える事例/ゴミ置場の掃除規則から考える事例/赤字バス路線に税金を使うべきか考える事例/よりよいまちづくりを考える事例など
日文	合唱コンクールの練習スケジュールを考える事例/ケーキの分配から考える事例/道路の拡張計画から考える事例/自分たちのまちの首長を選ぶ設定から考える事例など
自由社	部活での体育館使用規則を作る事例/魅力ある「まちづくり」から考える事例/家事方法の進歩が社会にもたらした影響から考える事例/お店を出店する設定から考える事例など
育鵬社	昼休みのグラウンド使用ルールを考える事例/物々交換ゲームから考える事例/お小遣いの使いみちから考える事例/救急車の「不要不急」の利用問題を議員になって考える事例など

(2) 法や金融に関する学習

	内容
東書	ちがいのちがいがい/私の選ぶ自由は/プライバシーの権利と表現の自由について考えよう/先住民族としてのアイヌ民族/模擬裁判をやってみよう/需要量・供給量・価格の関係について考えよう など
教出	ともに生きる社会を目指す人たち/死刑制度について考えよう/ネット社会で人権を守ることとは/「新しい人権」を考える/ピラミッドランキングを完成させよう（日本国憲法に定められた自由や権利）/もしも裁判員裁判に参加したら など
帝国	防犯カメラを巡って/有名人の個人情報をも無断で公開することについて/青果店を営む男性はどうなる？/裁判の判決を考えよう/あなたが無人島に漂着したら？/ライフプランからお金について考えてみよう など

日文	人間らしく生きるために必要なものは？/ビッグデータと防犯カメラ/ネット社会とつき合う方法/15歳は「子ども」？それとも「大人」？/裁判員シミュレーション/為替相場の変化の影響など
自由社	立憲主義の大切さについて考えよう/基本的人権のどの項目にあたる行為でしょうか/ 権利の平等に関する問題/新しい人権/犯罪被害者の人権保障の動き/裁判員制度 など
育鵬社	世界の人種問題/死刑制度についてディベートしてみよう/裁判員になって判決を考えよう/最高裁判所裁判官の模擬審査をしてみよう/銀行員になって融資をしてみよう/人生をデザインしよう など

(3)国家主権・領土問題に関する学習

	内容
東書	主権国家/沖ノ鳥島/国際法/国旗・国歌/特設ページ「公民にアクセス」日本の領土をめぐる問題の現状（竹島問題、北方領土問題、尖閣諸島への対応）/拉致問題
教出	主権国家/国旗・国歌/国際法/北方領土/竹島/尖閣諸島/特設ページ「読んで深く考えよう」日本の外交のいま（中国との外交関係、北朝鮮との外交関係、ロシアとの外交関係）/拉致問題
帝国	主権国家/国際法/国旗・国歌/拉致問題/尖閣諸島/北方領土/竹島
日文	国家主権/国旗・国歌/国際法/沖ノ鳥島/北方領土/竹島/尖閣諸島/特設ページ「日本の領土をめぐる問題の解決に向けて」（北方領土、竹島、尖閣諸島、世界の領土問題とその解決）/拉致問題
自由社	主権国家/北方領土/竹島/尖閣諸島/沖ノ鳥島/天然ガス採掘施設/国旗・国歌/特設ページ「もっと知りたい」国旗と国歌を考えてみよう/特設ページ「わが国の領土問題」（北方領土、竹島、尖閣諸島）/特設ページ「日本人拉致問題」/巻末「わが国の領域」
育鵬社	国旗・国歌/主権国家/国際法/拉致問題/北方領土/竹島/尖閣諸島/沖ノ鳥島/特設ページ「日本の領土をめぐる問題」（北方領土、竹島、尖閣諸島）

(4)「よりよい社会を目指して」に関する学習

	内容
東書	持続可能な社会の形成者として/レポートテーマの設定/資料の収集と読み取り/考察/ レポートの完成/探究を社会参画につなげる
教出	私の提案「自分を変える、社会を変える」をつくろう/テーマを選ぶ/表現方法の選択/テーマ設定の根拠/自分にとっての持続可能な未来とは/私の提案「自分を変える、社会を変える」をもとにした対話から持続可能な未来への思いや行動につなげる
帝国	持続可能な社会を目指して/課題を決めよう/資料を集めよう/考察しよう/レポートを書こう
日文	持続可能な社会をめざして/テーマの設定/資料の収集と読み取り/考察と構想/まとめと評価
自由社	レポートと卒業論文をつくろう/行ってみたい国を調べ紹介するレポートをつくってみよう/「持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるのか」を考え、「卒業論文」を作成してみよう/課題の探求 ディベートをしてみよう
育鵬社	よりよい社会への想いや願いをかたちにしよう/テーマを決めよう/課題探求の計画を立てよう/プレゼンテーションしよう/内容の見直し/レポート作成 私は内閣総理大臣「国づくり計画書」を作成

社会科（地図）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 0.5em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるようにするため、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的技能を身に付けられるようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○社会的事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察したり、諸課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○地図や統計などに平素から親しみ、課題の追究・解決のための教材として効果的に活用する意欲を育むために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <p>○多様な視点に着目し、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるようにするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○作業的・体験的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料を活用しやすいように、検索にどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○読み取りやすいように地図中の地名表記や彩色・配色、土地利用や等高線などに、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

<p>書名 項目</p>	<h1>新しい社会 地図</h1>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○地域の概観に役立つ、自然・産業・人口などの主題図を「基本資料」という形で設けることで、基礎的・基本的な知識を習得しやすいように工夫されている。 ○地域の特徴的な事象を「注目したい記号」という形で示すことで、地図の読み取りなどの地理的スキルを身に付けられるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○地理的分野の諸地域学習での課題解決的な学習に活用できる資料が、多数取り上げられている。 ○要所にキャラクターのふきだしを入れることによって、「社会的な見方・考え方」の視点をもたせ、思考をより深められるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○地図に親しみをもち、活用しやすくするために、鳥瞰表現の地図を掲載したり、地域の特産物をイラストで表したりすることで視覚的に読み取れるように工夫されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○世界の各州や日本の各地方ごとに、教科書にはない補充資料を掲載したり、関連する地図や資料を閲覧できるように、デジタルコンテンツに接続するための「二次元コード」を掲載したりするなど、主体的に学習がすすめられるように工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○地理の教科書との連携を強化し、人口ピラミッドの作成や地形図の読み取りなどの学習に必要な資料が掲載されている。 ○世界、日本、統計、さくいんでインデックスを大きく色分けし、さらに世界は州、日本は地方ごとに細かく色分けされている。 ○世界の各州や日本の各地方に関連する地図や資料を閲覧できるデジタルコンテンツに接続するための二次元コードを掲載している。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○基本図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字も読みやすいUDフォント（ゴシック体）を使用している。 ○基本図で示した地域を位置図で示している。 ○折り込みページを設け、地図記号を確認しやすくしたり、巻頭で地図の見方を示すとともに、資料の見方や他分野での活用方法を掲載するなど、地図が使いやすくなるように工夫されている。 ○歴史的分野や公民的分野に関連するページを設け、分野の枠を超えた「社会的な見方・考え方」をもとに、学習テーマを深められるように工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○世界の各州を同一縮尺の3枚の地図（P29、P61、P67）で表し、地球儀の代わりに使用できるように工夫されている。 ○防災に関する地図や資料が掲載され、防災への意識が高められる一方で、防災をテーマとした学習を深められるようになっている。 ○歴史的分野や公民的分野に関連するページを増やして、3年間の社会科の学習全体で活用できるように工夫されている。 ○写真やグラフ等、地図以外の資料を充実させるとともに、巻末に資料索引を設けるなど、資料を活用した学習が主体的にすすめられるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学校社会科地図</h1>	4 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 帝 国 </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○土地の高さによる色分けと、土地の使われ方による色分けを併用することで、地域的特色がつかみやすいように工夫されている。 ○要所に配された問い「地図活用」から、地図の読み取りなどの地理的スキルを身に付けられるようになっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○比較を通して地域の特色が考察できるように、自然や人口などの主要素をまとめた資料図は、縮尺が統一されている。 ○「社会的な見方・考え方」の視点に着目して、問い「地図活用」を要所に配置することで、思考をより深められるように工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図に親しみを持ち活用しやすくするために、世界の各州の鳥瞰表現の地図を掲載したり、特産物をイラストで表したりするなど、視覚的に読み取れるように工夫されている。 <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の各州や日本の各地方ごとに、多くの資料図を同一縮尺で掲載したり、関連する動画を閲覧したりできるように、デジタルコンテンツに接続するための「二次元コード」を掲載するなど、主体的に学習がすすめられるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の地形図を取り上げ、作業を通して地形図の見方が身に付けられるコーナーが設けられている。 ○左上にタイトル、左右上にページ番号、右端にインデックスが配置され、レイアウトの統一（構造化）がなされている。 ○世界の各州や日本の各地方ごとに、主体的な学びを助ける様々なコンテンツに接続するための二次元コードを掲載している。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○基本図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字も読みやすいUDフォント（丸ゴシック体）を使用している。 ○基本図で示した地域を位置図で示し、同緯度・同縮尺の日本を示している。 ○折り込みページを設けて地図記号を確認しやすくしたり、巻頭の「地図帳の使い方」に多くのページを割いて、内容を丁寧に解説するなど、地図が読みやすくなるように工夫されている。 ○基本図や資料図に「地図活用」を示し、読図等のスキルが身に付くだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた課題解決的な学習につながるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○大判化されたことで地図をより広域に表せるようになり、他州や他地方とのつながりを捉えやすくなっている。 ○防災に関する地図や資料が掲載され、防災への意識が高められる一方で、防災をテーマとした学習を深められるようになっている。 ○五街道を表す鳥瞰図を示したり、日本の統計資料に少子高齢化を表す項目を設けるなど、歴史的な分野や公民的分野でも活用できるように工夫されている。 ○多くのページに設けられた「地図活用」の「問い」を追究することで、「社会的な見方・考え方」が身に付けられるようになっている。 	

社会科（地図） 調査資料 2

○内容別ページ数・地図数

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		資料図の数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
地域構成（世界）	3	3	0	0	1	1	1	1	3	5
地域構成（日本）	3	5	0	3	2	2	1	9	0	0

【世界の様々な地域】

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		資料図の数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
世界各地の人々の生活と環境	20	10	76	66	1	1	0	0	33	13
アジア	20	23	44	35	5	6	3	5	27	44
ヨーロッパ	12	11	10	10	3	3	0	0	19	26
アフリカ	5	4	3	3	1	1	1	0	10	11
北アメリカ	9	8	8	4	2	2	2	1	15	18
南アメリカ	4	5	2	5	2	2	0	0	9	11
オセアニア	6	4	0	3	2	1	0	3	11	7
その他	0	3	0	1	0	2	0	4	0	1

【日本の様々な地域】

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		資料図の数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
九州地方	9	7	11	0	2	2	14	6	12	15
中国地方	4	4	1	1	3	3	2	2	9	11
四国地方	4	4	1	0	3	3	0	0	8	10
近畿地方	8	10	4	2	2	2	5	4	5	17
中部地方	8	12	1	8	3	5	1	2	13	18
関東地方	12	12	20	7	3	3	5	3	18	23
東北地方	5	5	10	0	1	1	1	2	6	14
北海道地方	9	9	2	0	3	3	3	3	9	13

【日本の地域的特色と地域区分】

内容	ページ数		写真の数			
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
自然環境	6	6	19	13		
人口	2	2	0	1		
資源・エネルギーと産業	6	6	11	4		
交通・通信	4	2	4	0		
生活・文化等	1	4	14	35	東書	帝国
世界の統計表	5.5	5	統計表の項目数		11	11
日本の統計表	4.5	4	統計表の項目数		9	9
索引	11	12				
総ページ数	192	188				

※総ページ数には中表紙等も含まれるため合計と一致しない。

※総ページ数は目録に記載されたページ数

【日本の諸地域の考察の仕方に関する資料数】

内容	資料数	
	東書	帝国
自然環境	17	18
人口や都市・村落	8	9
産業	19	24
交通や通信	12	7
その他の事象	2	11

※「一般図」のうち、1ページ以上のサイズのことを「基本図」とし、それ未満のものを「部分図」とした。

※「鳥瞰図」と資料図をまとめて「資料図」とした。

※統計については、表題のあるものを数えた。

数学科調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解できるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができるようにするために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動を通して、上記3つの観点で示された資質・能力をバランスよく育成するために、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵・写真・図表等の扱いに、どのような工夫が見られるか。 ○学習効果を高めるために、統計資料等には、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。 ○記号、用語、単位等の表現には、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい数学</h1>	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 小中接続を意識して、中学校1年生に「0章 算数から数学へ」を設けている。章の学習では、「例」と似た問題に「◆」マーク、典型的な誤答を「×まちがい例」、既習事項の再確認を「ちょっと確認」で取り上げている。節末「基本の問題」、巻末「補充の問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 「深い学び」は右ページにあり、次のページの考えが見えないように工夫されている。「数学マイノート」では、思考の過程や振り返りの記述例を示している。巻末「大切にしたい見方・考え方」では、問題解決の進め方とともに発表の仕方や聞き方、振り返りや、学びを深める視点などが分かるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 節の最初に、学習への意欲を高めるための導入課題が設定されていて、身の回りの問題を解決する活動から学習につながるように工夫されている。節末「数学のまど」では、学習に関連した読み物や問題を掲載している。章末「学びをひろげよう」では、社会で数学を活用している人を紹介し、数学の有用性を実感できるように工夫されている。 </p> <p> <数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 「Q」では、自ら考えたり調べたりする活動を通して、新たな知識・技能が身に付くように工夫されている。「深い学び」では、問題発見・解決の過程を意図した活動が示されている。章末「学びをひろげよう」では、「アーティスト」、「気象予報士」など実社会で活用している数学を紹介している。「時差」、「光」、「AED」など他教科の学習と関連した内容が、マークと教科名で示されている。 </p>	
資 料	<p> ○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 </p> <p> ○「車いすマラソン」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 </p> <p> ○デジタルコンテンツが使える内容には「D」マークが付けられている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文には、UDフォントが使用されている。 </p> <p> ○見通しをもって学習を進めるために、「学習課題」は黄色の枠で、解決すべき問題を示した「Q」は緑の枠で囲まれ、それぞれゴシック太字で強調されている。 </p> <p> ○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 </p> <p> ○右ページ外側に青色とピンク色のインデックスが章ごと交互にある。 </p>	
総 括	<p> 巻頭で「この本の使い方」、「大切にしたい数学の学び方」、「ノートの作り方」が掲載されている。章の導入には、主体的な学びのために「章とびら」や「学習課題」と「Q」が設けられている。章末には、数学のよさを実感できるように、社会で数学を活用している人を紹介する「学びをひろげよう」が設けられている。巻末には、深い学びを振り返ることができるように、「大切にしたい見方・考え方」が設けられている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">数学の世界</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div>
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 章の学習内容を「活動」、「例」、「例題」、「Q」で身に付け、「プラス・ワン」で補充することができるように構成されている。「補充問題」では、自主的に取り組める問題を設けている。節末「たしかめよう」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れ、数学的な見方・考え方が示されている。節内には、他者の考えが妥当かを判断する問題「判断しよう」や、他者の考えの内容を説明する問題「伝えよう」、学習を振り返ったり、ひろげたり、活用したりする問題「学びにプラス」が設けられている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 導入では、新しい学習への興味・関心を引き出すように、身近な題材が扱われている。また、数学の面白さや楽しさを味わえるように、読み物「MATHFUL」が設けられている。巻末「課題学習」、「活用・探究」では、各章の学習を総合したり、日常生活や社会、他教科の学習と関連付けたりする課題を取り上げている。 </p> <p> ＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 巻頭「数学の世界へようこそ」で問題発見・問題解決の流れを示し、見いだした問題の解決の仕方が身に付くように工夫されている。また、「ノートの手作り」では、学習を振り返ることができるノートの書き方の工夫が紹介されている。章末「社会にリンク」では、仕事の中の数学を紹介している。巻末「課題学習」では、各章の学習を総合したり、生活や他教科の学習に関連したりする問題を扱っている。 </p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○ 「フード・マイレージ」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○ デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、UDフォントが使用されている。 ○ 学習を始める手がかりとなる問題として「考えよう」が、学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で示されている。 ○ 新しい用語はゴシック太字で示され、必要に応じてルビが振られている。 ○ 右ページ外側に節ごとのインデックスがあり、内容領域で色分けされている。 	
総 括	<p> 巻頭で「この教科書の使い方」、「数学の世界へようこそ」、「ノートの手作り」が掲載されている。各章に1か所ずつ、問題発見、問題解決の流れが示されている。本文や章の終わりには、家庭学習に取り組めるように、「力をのばそう」、「活用・探究」、「社会にリンク」などが設けられている。巻末には、生活や学習との関連を図るために、「課題学習」、「MATHFUL」などが設けられている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学校数学</h1>	1 1 学 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 「Q」では生徒キャラクターの対話を、「例」では適宜ノート形式の解答を示し、模範的な解答の書き方を通して基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。「問」では適宜「正しいかな？」を設け、誤りやすい箇所を示している。節末「確かめよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 巻頭「教科書の使い方」で数学的な見方・考え方が示され、「Q」では、それらの用例を提示している。章末「深めよう」、巻末「疑問を考えよう」では、領域横断、教科横断的な学習に取り組むことができるように工夫されている。巻末「表現する力を身につけよう」では、発表の仕方やレポート例が示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 章のとびらでは、新しい学習への興味・関心を引き出すための身近な題材が扱われている。章末「できるようになったこと」で自己評価し、「さらに学んでみたいこと」を自分の言葉で記入できるように工夫されている。章末「役立つ数学」では、身の回りで活用されている数学を取り上げている。 </p> <p> <数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 各章の「数学的活動のページ」では、問題発見から課題解決を通して話し合いをベースに考え、さらに新たな問題を発見する過程が見えるよう、ページの左側に学習過程を示し、対話的な学びが実現できるように工夫されている。本文の展開も、自分たちで見つけた課題「次の課題へ！」から「目標」を発見し、「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ！」とつながる構成となっている。 </p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○ 「フェアトレード」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○ デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、UDフォントが使用されている。 ○ 単元の始めに導入課題としての「Q」がゴシック太字で、「目標」が鍵マークと枠囲みで示されている。 ○ 新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○ 右ページ外側に青色とピンク色のインデックスが章ごと交互にある。 	
総 括	<p> 巻頭で「この教科書を使った数学の学び方」、「ノートの使い方」、「単位の書き方」、「QRコードの使い方」が掲載されている。各領域のはじめに、既習事項をまとめた「ふりかえり」のページが設けてある。章の学習の中に「数学的活動のページ」が適宜設けられ、1つの課題に対する問題発見から解決までの過程が示されている。章末には「できるようになったこと」をまとめたページが設けられている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学数学</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 問題形式で既習内容を確認する「学習する前に」が設けられている。節の学習は「Q」、「例」、「例題」、「たしかめ」、「問」により、理解を確かなものにするように構成されている。節末「基本の問題」、章末「学習のまとめ」、巻末「補充問題」では本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 巻頭で「数学的な考え方」を紹介し、本文でそれらが具体的に示されている。各学年に1箇所「工夫してノートを書こう」のページを設け、思考力や表現力の基礎として、ノートを書く際のポイントが示されている。巻末「学んだことを活用しよう」、「総合問題」では、学んだことを活用する問題が設けられている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 章のとびらでは、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を扱い、章の学習の必要性や数学の有用性に触れ、学びに向かうきっかけをつくるように工夫されている。章末「数学の広場」、「数学メモ」では、生徒が興味・関心を抱く課題や数学に関連する知識、数学の歴史的・文化的な話題などを掲載している。 </p> <p> <数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 学習のプロセスのページを適宜設け、問題発見・解決の数学的活動の一連のプロセスを体験することができるように工夫されている。章末、巻末の「学んだことを活用しよう」では、数学の事象の問題解決、統合・発展の問題が取り上げられている。巻末「数学の広場」では、「気象予報士」、「データアナリスト」など社会や職業の中で、数学が活用されている例を紹介した読み物が掲載されている。 </p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「ポリオワクチン支援」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○章のはじめに、学習につながる課題「Let's Try」のページが、新しい学習のきっかけとして緑色丸囲み白抜きで「Q」が設けられている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○左ページ番号脇に章が、右ページ番号脇に節が示されている。 	
総 括	<p> 巻頭で「教科書の使い方」、「学習するにあたって」、「数学的な考え方」が掲載されている。章のはじめに、既習事項を振り返る「学習する前に」のページがある。章の学習の中に学習のプロセスのページが適宜設けられ、問題を見いだして解決し、振り返るプロセスが示されている。章末には章の基本的な学習内容を確認するための「学習のまとめ」が、巻末には1年間の学習を振り返る「学びのマップ」が設けられている。 </p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>未来へひろがる数学</h1>	<p>61 啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 章の学習は「例」で理解し、「例題」を解き、学んだことがらを「問」で確認し、「練習問題」で深めるように構成され、類題を巻末「もっと練習しよう」に掲載している。章末「学びをたしかめよう」、巻末「もっと練習しよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 章のはじめの「ひろげよう」では、新しい学びがはじまるきっかけとなるように工夫されている。学習で働かせた数学的な見方・考え方をページの下部に虫眼鏡のマークで示し、いろいろな場面で活用できるように工夫されている。「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」では、学んだことを表現する活動ができるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 節のはじめに、興味・関心を引き出すための「学習のとびら」が設けられている。章末「数学ライブラリー」では、その章で学習した内容にまつわる読み物が掲載され、興味・関心を高めるように工夫されている。巻末「学びをいかそう」では、日常生活や社会、他教科と数学との関わりを考えることができる題材が扱われている。</p> <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 章のはじめは、日常の事象から新しい学習のきっかけとなる問題を設定する場面が多くなっている。章の中盤には、数学の事象から問題を見だし解決する場面が多くなっている。学んだことを表現する力を身に付けるために、「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」を章の学習の途中に設けている。巻末「学びをいかそう」では、学んだことを利用したり、深めたりすることができる題材が設けられている。</p>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「AEDと救命率」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○節の学びがはじまる場面は「節のとびら」で、新しい学びのきっかけとなる問題は「ひろげよう」のマークで示されている。 ○新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は茶色枠で囲われている。 ○右ページ外側に章ごとのインデックスが茶色で示されている。 	
<p>総 括</p>	<p>学校の授業での学びを想定し、表紙からはじまる「みんなで学ぼう編」と、生徒の興味・関心に応じ、さらに力を伸ばす学びを想定し、裏表紙からはじまる「自分から学ぼう編」の2編で構成されている。巻頭で「構成」、「使い方」、「ノートのかふう」が掲載されている。学んだことがらにまつわる読み物として「数学ライブラリー」や、学んだことを役立てて解決する課題「学びを生かそう」が設けられている。</p>	

数学科調査資料 1 - 6

<p>書名 項目</p>	<p>日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学 探求ノート</p>	<p>104 数 研</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 各章の前や本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」が設けられている。節末「確認問題」、巻末「ぐんぐんのばそうチャレンジ編」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。章末「問題A」、「問題B」は、習熟度に応じてさらに取り組むことができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 本冊の「Q」や「TRY」による問いでは、答えを求めるだけでなく、説明する問いかけを多くしたり、対話によって数学的な見方・考え方を可視化したりしている。別冊「探究ノート」では、探究心をのばす題材で、数学的な見方・考え方を働かせ、問題発見・問題解決の力が高まるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 巻頭に学び方のガイダンスとして、「学習の進め方」、「ノートの作り方」、「レポートの書き方」が設けられている。本冊内の章の学習や、別冊「探究ノート」内の「課題学習」では、身の回りの課題を解決する機会を設けることで、数学の有用性を感じられるように工夫されている。</p> <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 本冊の「Q」や「TRY」では、生徒に考えさせるよう問いかけ、数学的活動を効果的に取り入れるように工夫されている。巻末では、社会で活用されている数学を紹介している。「数学に関係する英単語」、「天体」、「世界遺産」など、他教科の学習と関連した内容が示されている。別冊「探究ノート」は、本冊で学んだ内容から新たな疑問や課題を見だし、数学的活動を通して主体的に解決を目指す構成となっている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「PM2.5」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「Link」マークが付けられている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○活動を通して解決する課題を「TRY」マークで、学習の中で大事にしたい問いかけを「Q」のマークで示している。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に節ごとのインデックスが青で示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>巻頭で「この教科書について」、「学習の進め方」、「ノートの作り方」が掲載されている。章のはじめには、左ページには既習事項「ふりかえり」が、右ページには学びのきっかけになる章のとびらが設けられている。章末には、生活や学習との関連を図るために、「やってみよう」、「調べよう」などが設けられている。別冊「探究ノート」があり、探究的な内容や課題学習、ワークシートが掲載されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学数学</h1>	116 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 章のはじめに「次の章を学ぶ前に」で、既習事項を確認できるように工夫されている。節の学習は、「Q」、「例」、「問」で構成されていて、基礎・基本の定着のために「まちがえやすい問題」が設けられている。節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 巻頭「数学的な見方・考え方を身につけよう！」では、数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶことについて説明されている。各小節では、「大切な見方・考え方」で、それぞれの学習場面で働かせる数学的な見方・考え方が示されている。章末には、記述する力を高める問題として「説明できるかな？」が設けられている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 生徒キャラクターの言葉で学ぶ意欲を引き出す工夫をしている。章のとびらでは、章の学習への動機付けをする場面が設けられている。章末「数学のたんけん」、巻末「数学を仕事に生かす」、「暮らしと数学」、「数学研究室」では、数学への興味が高まるように、学習内容に関連したコラムや課題が扱われている。 </p> <p> <数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 日常や社会の事象「身近なことがら」及び数学の事象「数学のことがら」を扱う数学的活動を示した「学び合おう」を適宜掲載している。「学び合おう」の授業展開の後半には、友達の考えと同じところはないか、よりよい解決方法はないかなどを話し合い、より深い理解を得る「話し合おう」が設けられている。巻末「数学マイトライ」では、実社会で活用されている数学を紹介している。 </p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「空き缶リサイクル」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○小節の始めに「めあて」をオレンジ色のゴシック太字で、導入課題「Q」を緑色丸囲み白抜きで示している。 ○新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は水色枠で囲われている。 ○右ページ外側に章ごとのインデックスが青と緑が交互に示されている。 	
総 括	<p> 巻頭で、「この本の使い方」、「数学の学習を始めよう!」、「数学的な見方・考え方を身につけよう!」、「ノートのかふう」が掲載されている。章のはじめには既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」が設けられている。活用の場面では、切り取って使用する「対話シート」が設けられている。章末の「数学のたんけん」、巻末の「数学マイトライ」では、生活や学習との関連が図られている。 </p>	

数学科 調査資料2

○分量について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
1	総ページ数 ※目録に記載された ページ数	1年	312	324	316	332	336	362	324
		2年	250	250	270	280	264	304	254
		3年	284	302	310	306	320	370	296
2 領域別 ページ 数	A 数と計算	1年	101	112	117	118	102	108	110
		2年	48	54	59	54	48	54	50
		3年	84	90	89	90	80	82	78
	B 図形	1年	68	74	66	72	68	68	60
		2年	64	70	70	80	64	66	66
		3年	82	82	91	86	82	88	76
	C 関数	1年	40	40	38	37	34	34	40
		2年	38	32	38	34	36	36	36
		3年	34	34	37	32	30	32	34
	D データの活用	1年	24	26	30	24	26	25	34
		2年	34	32	36	39	26	29	30
		3年	14	18	18	17	16	17	16
	課題学習等	1年	79	72	65	81	106	127	80
		2年	66	62	67	73	90	119	72
		3年	70	78	75	81	112	151	92

○領域別教材数等について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
1	総単元数 (章の数)	1年	8	7	7	8	7	7	7
		2年	7	7	7	7	7	7	6
		3年	8	8	8	8	8	8	8
2 領域別 教材数	(章の数/節の数/小節の数) A 数と計算	1年	4/10/22	3/12/36	3/8/20	4/11/27	3/7/19	3/9/23	3/9/38
		2年	2/4/8	2/6/17	2/4/9	2/4/10	2/4/7	2/4/10	2/4/18
		3年	3/8/17	3/8/30	3/7/17	3/8/19	3/7/15	3/7/18	3/7/27
	B 図形	1年	2/6/13	2/8/30	2/4/10	2/7/13	2/5/11	2/5/12	2/6/20
		2年	2/5/12	2/5/25	2/4/11	2/5/15	2/4/12	2/5/13	2/4/22
		3年	3/7/14	3/9/32	3/7/16	3/8/16	3/8/13	3/6/16	3/6/25
	C 関数	1年	1/4/9	1/4/13	1/4/6	1/4/7	1/4/7	1/3/7	1/4/14
		2年	1/4/9	1/3/9	1/3/6	1/3/7	1/3/6	1/3/7	1/3/12
		3年	1/3/5	1/2/10	1/2/5	1/3/5	1/3/6	1/2/5	1/12/11
	D データ の活用	1年	1/3/4	1/3/9	1/2/4	1/2/6	1/2/3	1/2/4	1/2/9
		2年	2/3/4	2/4/8	2/2/5	2/3/5	2/2/5	2/3/5	1/2/9
		3年	1/1/2	1/2/6	1/1/3	1/2/3	1/1/3	1/1/2	1/1/4

○日常生活や社会のできごとなどを取り扱った例（下記の用語は教科書の表記による）

東 書	1年：待ち時間の予想はできるかな？（比例と反比例） 2年：くじを先に引く？あとに引く？（確率） 3年：渋滞学を学んでみよう（関数 $y=ax^2$ ）
大日本	1年：海外に住む友だちと交流しよう（数の世界のひろがり） 2年：どちらの電球を買う？（1次関数） 3年：パスタメジャーを作ろう（相似と比）
学 図	1年：震源までの距離は？（比例と反比例） 2年：CT スキャンと数学（連立方程式） 3年：丸太からとれる角材は？（平方根）
教 出	1年：気象予報士（正の数、負の数） 2年：輸送計画担当者（1次関数） 3年：都市模型製作者（相似な図形）
啓林館	1年：何分発のバスに乗る？（データの活用） 2年：AED の重要性がわかるグラフ（一次関数） 3年：魚の数を調べるには？（標本調査とデータの活用）
数 研	1年：降水確率（データの活用） 2年：誕生日が同じ日である人がいる確率（確率） 3年：山頂から見渡せる距離（三平方の定理）
日 文	1年：暗号と素因数分解（正の数と負の数） 2年：1970年の大阪万博の入場者数（データの分析と確率） 3年：風之力（関数 $y=ax^2$ ）